

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活社会の理解

科目名	物理学	単位数	2	学科	理学療法	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	小岩正敏	実務 経歴
担当教員	小岩正敏	

概要	数式の使用を最小限にして、図など日常体験する例などを多用して物理学を直観的に理解できるよう努力を払い、力学を中心に電気・熱などの働きについて理解する能力と数理的処理能力を養えることを目指す。
----	---

一般目標 (GIO) 対 応 C C	物理学全般の基礎的な教養と知識を身につけることができる。 他の科目で学ぶ人体の構造や動きを物理学の基礎原理に基づいて理解する。 様々な医療機器の動作原理を理解する。
-----------------------	--

教科書	「理解しやすい物理基礎」(文英堂)
-----	-------------------

参考書・教材	
--------	--

履修上の注意点	数式の物理的な意味を説明するとともに、例と例題を適切に使って、物理量の理解及び物理法則の適用法の理解を身につける。(関数付き電卓の使用可)
---------	---

実施回	授業内容	担当教員
1	物体の運動 : 日常に起こる物体の運動	小岩
2	: 相対運動 (運動とは何かを説明できる。)	小岩
3	: 速度、加速度 (位置、変位、速度、加速度について説明できる。)	小岩
4	: 落下の運動 1 (等速直線運動、等加速度直線運動について説明できる。)	小岩
5	: 落下の運動 2 (等速直線運動、等加速度直線運動の基本的な問題を習得。)	小岩
6	: 運動の法則 (等速直線運動、等加速度直線運動の基本的な問題を習得。)	小岩
7	力 : 力の合成と分解 (力のモーメントについて説明できる。)	小岩
8	: 力のつり合い、作用と反作用力、モーメント (並進運動、回転運動が静止する条件を説明できる。)	小岩
9	: 力のつり合いの応用 1 (重心とその求め方について説明できる。)	小岩
10	: 力のつり合いの応用 2 (3つのでこ、について特徴を説明できる。)	小岩
11	エネルギー : 熱と温度、熱エネルギー (気体の温度、圧力、体積の関係を説明できる。)	小岩
12	電気 : 物質と電気、電流、電圧、抵抗と電気回路 1 (原子の構造と電気の性質について説明できる。)	小岩
13	: 電流、電圧、抵抗と電気回路 2 (電荷の間に働く力について説明できる。)	小岩
戸14	: 電流、電圧、抵抗と電気回路 3 (電場、電圧について説明できる。)	小岩
15	: 電流、電圧、抵抗と電気回路 4 (電流、電圧、抵抗の関係について説明できる。)	小岩

	割合 (%)	基準および方法
		定期試験
平常評価	10%	評価基準：①～③を勘案し総合的に科目評価を行う
		①定期試験：60%以上
		②実技試験：60%以上
		③平常評価：平常試験、レポート、受講態度等の評価C以上

科目名	医療面接演習	単位数	2	学科	理学療法	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	鈴木 由紀子	実務 経歴	医療機関において10年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に経験し、幅広い知識を有している。この経験を活かし、コミュニケーション演習を行う。
担当教員	鈴木 由紀子 山内 智恵		
概要	理学療法を実施する上で不可欠な対象者への面談の重要性を理解し、節度ある適切な態度、基礎的な面談技能を学習することで臨床実習における対象者へ医療面接が実施できる能力を修得する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	人間性豊かな自己形成を軸に心理・社会的背景を踏まえながら、人々と相互に信頼された関係を築き、個々が意思決定する。お互いの考えを認知・共感・理解し、有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。(A-6)		

教科書	
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	臨地実習では華美でない節度ある服装で参加すること

実施回	授業内容	担当教員
1・2	オリエンテーション、コミュニケーションと医療面談について理解できる	専任教員
3・4	コミュニケーションにおける組織人・医療人としての基本的な心構えを述べられる	専任教員
5・6	対象者への接遇応対を考えることができる	専任教員
7・8	ICF を利用した情報の整理を実践できる	専任教員
9・10	面接内容の検討をする	専任教員
11・12	医療面接の実践①（実際に面接を実施できる）	専任教員
13・14	医療面接の実践②（実際に面接を実施できる）	専任教員
15・16	医療面談内容のまとめ①（振り返りを実施し、改善点を考察できる）	専任教員
17・18	医療面接内容のまとめ②（振り返りを実施し、改善点を考察できる）	専任教員
19・20	面接内容の再考することができる	専任教員
21・22	医療面接の実践③（実際に面接を実施できる）	専任教員
23・24	医療面接の実践④（実際に面接を実施できる）	専任教員
25・26	医療面談内容のまとめ③（振り返りを実施し、改善点を考察できる）	専任教員
27・28	医療面談内容のまとめ④（振り返りを実施し、改善点を考察できる）	専任教員
29・30	発表	専任教員

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	発表		受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：科目の総合評価は、発表（発表態度・資料 等）、平常評価（ディスカッション、授業参加状況 等）を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目名	義肢装具学演習	単位数	1	学科	理学療法	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	鈴木 由紀子	実務 経歴	医療機関において10年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に経験し、幅広い知識を有している。この経験を活かし、義肢学・歩行補助具について講義を行う。
担当教員	鈴木 由紀子		
概要	解剖学、運動学を既知として、断端管理と各義肢の特性・アライメントについて学び、適応と臨床判断、義足歩行時の異常と修正について学ぶ。また、車いすと杖の適応についても学ぶ。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	①断端管理とアライメントについて説明することができる。(E-5-3) ②各義肢の特性とアライメントを説明することができる。(E-5-3) ③各義肢の適応と判断について理解することができる。(E-5-3) ④義肢装着時のチェックアウトを理解することができる。(E-5-3) ⑤車いすと杖の適応について理解することができる。(E-5-3)		

教科書	15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 中山書店
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	解剖学・運動学の復習を随時行い、講義に参加すること

実施回	授業内容	担当教員
1	車いすの各部名称とチェックアウトを述べるができる	鈴木
2	歩行補助具の種類を挙げ、適応判断をすることができる	鈴木
3	切断と義肢の総論：切断に至る疫学、幻肢、断端管理について説明ができる	鈴木
4	義足適合とアライメント：義足の構成を知り、ベンチアライメント・スタティックアライメント・ダイナミックアライメントについて説明ができる	鈴木
5	大腿義足①：大腿ソケットと大腿義足の各機能について説明することができる	鈴木
6	大腿義足②：大腿義足のベンチアライメント・スタティックアライメント・ダイナミックアライメントについて説明することができる	鈴木
7	大腿義足の異常歩行：異常歩行の原因を説明することができる	鈴木
8	下腿義足①：下腿ソケットと足部機能について説明することができる	鈴木
9	下腿義足②：大腿義足のベンチアライメント・スタティックアライメント・ダイナミックアライメントについて説明することができる	鈴木
10	股離断・膝離断・足部離断：各離断に対する義足の特徴を説明することができる	鈴木
11	義肢の理学療法評価と理学療法について、その方法を述べるができる	鈴木
12	義手①：上肢切断の特徴と上肢義手の各機能について説明することができる	鈴木
13	義手②：評価と日常生活動作獲得について述べるができる	鈴木
14	義肢装具の支給制度について述べるができる	鈴木
15	まとめ	鈴木

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	60%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：科目評価（定期試験と課題内容の合計）において60%に満たない場合は、再試験対象とする。 科目の総合評価は、定期試験、課題内容、平常評価（ディスカッション、授業参加状況等）を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	課題	40%	
	平常評価		

科目名	評価実習	単位数	3	学科	理学療法	期	後期
		時間数	135	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	鈴木 由紀子	実務 経歴	医療機関において10年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に経験し、幅広い知識を有している。
担当教員	鈴木 由紀子 他		
概要	<p>臨床における一連の理学療法を見学する中で、観察の基礎を学び、リハビリテーションにおける理学療法及び理学療法士の果たす役割について考える。</p> <p>対象者と信頼関係を構築するため、理学療法士として相応しい態度、言葉遣いや対象が話し易い雰囲気作りを学ぶ（他職種連携を含む）。</p> <p>また、実習前・実習後の評価要領に基づいた、学生評価を臨床実習指導者と共有し、より効果的な教育へとつなげる。</p>		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	<p>日本理学療法士協会が「臨床実習の手引き」で提示する水準1に該当する臨床行為について、臨床実習指導者の監督・指導の下で実施すべき項目を対象者へ不利益なく安全に行える。(F-1~4)</p> <p>また、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割や関連職種との連携について理解し、通所リハ、訪問リハ指導要領に基づき対象者への理学療法を見学、一部を経験する。(F-5)</p>		

教科書	配布プリント
参考書・教材	「臨床実習指導要領」 (当校作成)
履修上の注意点	配布資料、臨床実習指導要領の内容を理解し、事前準備に努めること。 実習中は自己管理に努め、実習生としての立場で診療チームの一員として対象者の利益になれるよう行動すること。

実施回	授業内容	担当教員
	オリエンテーション、実習前評価	鈴木 他
	臨地実習	教員 指導者
	実習後評価 (学内報告会、面談)	鈴木 他

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	報告会		<p>評価基準：臨地実習の出席が80%以上で成績評定の資格を得る。</p> <p>評価方法：実習前後評価の到達度および出席率、報告会、面談などでの成果を基に総合的に評定する。</p>
	面談		

科目名	臨床理学療法学Ⅰ（演習）	単位数	2	学科	理学療法	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	鈴木 由紀子	実務 経歴	医療機関において10年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に経験し、幅広い知識を有している。この経験を活かし、臨床推論について講義・演習を行う。
担当教員	鈴木 由紀子 山内 智恵		
概要	評価実習（臨地実習）へ向け理学療法評価の一連の流れを理解し、基本的な検査・測定などの理学療法評価を健常人に対して安全に実施できる能力を習得する。		
一般目標（GIO） 対 応 C C	EBPTにつながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れを展開し、考察することができる。（E-3、E-4）		

教科書	理学療法評価学テキスト（南江堂） 理学療法検査・測定ガイド 第2版（文光堂） 新・徒手筋力検査法 第9版（協同医書出版）		
参考書・教材	ベッドサイドの神経の診かた第18版（南山堂） 他 適宜資料を配布する。		
履修上の注意点	演習は動きやすい服装で参加すること		

実施回	授業内容	担当教員
1・2	理学療法評価の目的と評価方法、スクリーニング検査、評価実施時期を理解する	専任教員
3・4	治療計画立案のプロセスを説明することができる	専任教員
5・6	情報収集と情報の整理①（症例を通して情報の整理をすることができる）	専任教員
7・8	情報収集と情報の整理②（症例を通して情報の整理をすることができる）	専任教員
9・10	目標設定、理学療法プログラム立案①（症例を通して理学療法プロセスを考察する）	専任教員
11・12	目標設定、理学療法プログラム立案②（症例を通して理学療法プロセスを考察する）	専任教員
13・14	診療ガイドラインを知り、実施記録を記載することができる	専任教員
15・16	バイタルサイン測定、医療面接、機能形態測定を実施できる	専任教員
17・18	関節可動域測定を実施できる	専任教員
19・20	筋力・筋持久力測定、筋緊張評価を実施できる	専任教員
21・22	感覚検査、疼痛検査を実施できる	専任教員
23・24	姿勢評価、運動・動作能力評価を実施できる	専任教員
25・26	起居移動動作評価を実施できる	専任教員
27・28	バランス・平衡機能能力評価を実施できる	専任教員
29・30	セルフケア能力評価、住環境（生活環境）評価を実施できる	専任教員

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	実技試験		
	平常評価		

受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
評価要領：科目の総合評価は、OSCE試験及び平常評価（授業態度、提出物）を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科 目 名	義肢装具学	単位数	2	学科	理学療法	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	鈴木 由紀子	実務 経歴	医療機関において10年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に経験し、幅広い知識を有している。この経験を活かし、義肢学・歩行補助具について講義を行う。
担当教員	鈴木 由紀子		
概要	解剖学、運動学を既知として、各身体部位のアライメントと各装具の特性について学び、適応と臨床判断について修得する。また、各疾患に対応する適応とチェックアウトのポイントを学ぶ。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	①各装具の特性を説明することができる。(E-5-3) ②各装具の適応と判断について理解することができる。(E-5-3) ③各装具装着時のチェックアウトを理解することができる。(E-5-3)		
教科書	15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学 中山書店		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点	解剖学・運動学の復習を随時行い、講義に参加すること		

実施回	授業内容	担当教員
1	装具学総論：装具の目的と分類を説明することができる、三点固定の原理を説明できる	鈴木
2	下肢装具の部品とその機能：継手の種類と役割について説明することができる	鈴木
3	短下肢装具：装具の種類と短下肢装具の三点固定の原理を説明することができる	鈴木
4	長下肢装具・股装具・膝装具：装具の種類と長下肢装具の三点固定の原理を説明することができる	鈴木
5	靴型装具・足底挿板：足部の機能について述べることができ、靴底の補正について説明することができる	鈴木
6	下肢装具のチェックアウト：各関節の継手軸を述べるができる、立位でのチェックアウトについて理解し、適応について理解することができる	鈴木
7	下肢装具と部品のまとめ（平常試験）	鈴木
8	上肢装具：装具の種類と役割、上肢装具の三点固定の原理を説明することができる	鈴木
9	体幹装具：装具の種類と役割を説明することができる	鈴木
10	上肢・体幹装具のチェックアウト：チェックポイントを説明することができる	鈴木
11	疾患別装具の処方：脳血管障害に対する装具を分類できる	鈴木
12	疾患別装具の処方：末梢神経障害・運動器障害に対する装具を分類できる	鈴木
13	疾患別装具の処方：脳性麻痺・小児疾患に対する装具を分類できる	鈴木
14	疾患別装具の処方：関節リウマチに対する装具を分類できる	鈴木
15	まとめ	鈴木

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	80%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：科目評価（定期試験と平常試験の合計）において60%に満たない場合は、再試験対象とする。 科目の総合評価は、定期試験、平常試験、平常評価（ディスカッション、授業参加状況 等）を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常試験	20%	
	平常評価		

科目区分： 専門科目

科目名	日常生活活動学	単位数	2	学科	理学療法	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	鈴木 由紀子	実務 経歴	医療機関において10年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に経験し、幅広い知識を有している。この経験を活かし、基本動作と日常生活活動動作について講義を行う。
担当教員	鈴木 由紀子 山内 智恵		
概要	日常生活動作の概念を理解し、その範囲と評価項目の関係性を理解できる。福祉用具支援機器の適応と役割とを理解することができる。各種疾患に応じた日常生活動作指導を理解することができる。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なく適応される基本的な技術について、知識を修得すると共に、学内演習を通して、実施できるようになる。特に、「実施できる」「使用する」「実際に行う」とする項目については、実技能力として修得する。(E-5)		

教科書	「理学療法学テキストⅤ 日常生活活動 (ADL)」神陵文庫 「姿勢と動作 ADL その基礎から応用」メヂカルフレンド社		
参考書・教材	「crosslink 理学療法学テキスト 理学療法評価学」メジカルビュー、他 資料		
履修上の注意点	特になし		

実施回	授業内容	担当教員
1	総論：ADL の概念と範囲、ADL 評価と方法について説明することができる	鈴木
2	各論：運動器（人工股関節）に対する動作指導を説明できる	鈴木
3	各論：運動器（切断、慢性腰痛症）に対する動作指導を説明できる	鈴木
4	各論：自己免疫疾患（関節リウマチ）に対する動作指導を説明できる	鈴木
5	各論：脊髄損傷に対する動作指導を説明できる	山内
6	各論：神経筋疾患に対する動作指導を説明できる	山内
7	各論：内部障害（呼吸器疾患）に対する動作指導を説明できる	山内
8	各論：片麻痺に対する動作指導を説明できる①	鈴木
9	各論：片麻痺に対する動作指導を説明できる②	鈴木
10	各論：片麻痺に対する動作指導を説明できる③	鈴木・山内
11	基本動作・複合動作について整理することができる①	鈴木・山内
12	基本動作・複合動作について整理することができる②	鈴木・山内
13	福祉用具支援機器の選択方法を説明できる	山内
14	平常試験	鈴木
15	まとめ	鈴木

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
	平常試験		評価要領：科目の総合評価は、定期試験、平常試験、平常評価（ディスカッション、授業参加状況 等）を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目名	日常生活活動学演習	単位数	2	学科	理学療法	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	鈴木 由紀子	実務 経歴	医療機関において10年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に経験し、幅広い知識を有している。この経験を活かし、基本動作と日常生活活動動作について講義・演習を行う。
担当教員	鈴木 由紀子 山内 智恵		
概要	日常生活動作の概念を理解し、その範囲と評価項目の関係性を理解できる。 福祉用具支援機器の適応と役割とを理解することができる。 各種疾患に応じた日常生活動作指導を理解することができる。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なく適応される基本的な技術について、知識を修得すると共に、学内演習を通して、実施できるようになる。特に、「実施できる」「使用する」「実際に行う」とする項目については、実技能力として修得する。(E-5)		

教科書	「理学療法学テキストV 日常生活活動 (ADL)」神陵文庫 「姿勢と動作 ADL その基礎から応用」メヂカルフレンド社
参考書・教材	「crosslink 理学療法学テキスト 理学療法評価学」メヂカルビュー、他 資料
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1・2	総論：ADL の概念と範囲、ADL 評価と方法について説明することができる	鈴木
3・4	各論：運動器（人工股関節）に対する動作指導を説明できる	鈴木
5・6	各論：運動器（切断、慢性腰痛症）に対する動作指導を説明できる	鈴木
7・8	各論：自己免疫疾患（関節リウマチ）に対する動作指導を説明できる	鈴木
9・10	各論：脊髄損傷に対する動作指導を説明できる	山内
11・12	各論：神経筋疾患に対する動作指導を説明できる	山内
13・14	各論：内部障害（呼吸器疾患）に対する動作指導を説明できる	山内
15・16	各論：片麻痺に対する動作指導を説明できる①	鈴木
17・18	各論：片麻痺に対する動作指導を説明できる②	鈴木
19・20	各論：片麻痺に対する動作指導を説明できる③	鈴木・山内
21・22	基本動作・複合動作について実践することができる①	鈴木・山内
23・24	基本動作・複合動作について実践することができる②	鈴木・山内
25・26・27	基本動作・複合動作について実践することができる③	鈴木・山内
28・29	各論：老年期障害に対する動作指導を説明できる	山内
30	まとめ	鈴木

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
	実技試験		
	平常評価		

			<p>評価要領：科目の総合評価は、実技試験 60 点以上、平常評価（ディスカッション、授業参加状況 等）を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。</p>
--	--	--	---

科 目 名	理学療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	理学療法	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	鈴木 由紀子	実務 経歴	医療機関において10年以上、整形外科疾患、中枢神経疾患などを中心に経験し、幅広い知識を有している。この経験を活かし、理学療法評価について講義・演習を行う。
担当教員	鈴木 由紀子 山内 智恵		

概 要	理学療法を展開するために必要な評価に至るまでの基本的な思考過程と、検査測定 の基礎的知識、画像評価および実際の検査に必要な実技を併せて展開していく。当 講義は実技を中心に、評価の妥当性を考慮した内容補填を随時行い、臨床実習で使 う事のできる技術の修得をする。
一般目標 (GIO) 対 応 C C	疾病に関わりなく理学療法士が実施する種々な機能低下を把握するための検査測定 技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。(E-4-1)

教 科 書	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社
参 考 書 ・ 教 材	「Crosslink 理学療法学テキスト 理学療法評価学」メジカルビュー 「図解 理学療法検査・測定ガイド 第3版」文光堂 「ベッドサイドの神経の診かた第18版」南山堂 他 適宜資料を配布する
履修上の注意点	演習では動きやすい服装で参加すること

実施回	授業内容	担当教員
1・2	評価総論(徒手筋力検査)、オリエンテーション	鈴木・山内
3・4	徒手筋力検査Ⅰ(肩甲帯の検査を実施することができる)	山内・鈴木
5・6	徒手筋力検査Ⅱ(肩関節の検査を実施することができる)	山内・鈴木
7・8	徒手筋力検査Ⅲ(肘関節・前腕の検査を実施することができる)	山内・鈴木
9・10	徒手筋力検査Ⅳ(手関節の検査を実施することができる)	山内・鈴木
11・12	徒手筋力検査Ⅴ(股関節の検査を実施することができる)	鈴木・山内
13・14	徒手筋力検査Ⅵ(膝関節の検査を実施することができる)	鈴木・山内
15・16	徒手筋力検査Ⅶ(足関節・足部の検査を実施することができる)	鈴木・山内
17・18	評価手技Ⅰ～Ⅶまとめ	鈴木・山内
19・20	徒手筋力検査(評価確認)	鈴木・山内
21・22	徒手筋力検査(評価確認)	鈴木・山内
23・24	徒手筋力検査Ⅷ(頸部の検査を実施することができる)	鈴木・山内
25・26	徒手筋力検査Ⅸ(体幹の検査を実施することができる)	鈴木・山内
27・28	観察に基づく動作分析	鈴木・山内
29・30	まとめ	鈴木・山内

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法 受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
	実技試験		
	平常評価		

			評価要領：科目の総合評価は、実技試験 60 点以上および平常評価（授業参加状況 等）を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
--	--	--	---

科目区分： 専門

科目名	理学療法技術論	単位数	1	学科	理学療法	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	西田 万里	実務 経歴	平成17年より医療施設に勤務し、小児分野を中心に中枢神経疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験してきた。この経験を活かして疾患論から治療学まで授業を行う。
担当教員	西田 万里 他		
概要	各種理学療法テクニックについて概説的に学習する。今まで学習してきた解剖学、生理学、運動学を基盤に喀痰等の吸引を含むそれぞれの手技や効果について理解する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	理学療法の対象となる代表的な疾患について、その理学療法経過について理解し、それぞれの疾患別に理学療法技術を理解し、実施できるようになる。E-6)		

教科書	なし
参考書・教材	「理学療法ハンドブック 第2巻 治療アプローチ 第4版」協同医書出版社 「図解 理学療法技術ガイド」 文光堂 他 適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	ROM-ex について適応や禁忌、方法について説明できる	本間
2	ブルンストロームアプローチについて適応や禁忌、方法について説明できる	本間
3	DYJOC 訓練について適応や禁忌、方法について説明できる	西田
4	筋膜リリース、マッサージについて適応や禁忌、方法について説明できる	西田
5	ボバースアプローチについて適応や禁忌、方法について説明できる	西田
6	吸引・吸痰について適応や禁忌、方法について説明できる	山内
7	整形疾患の模擬症例について問題点を抽出できる	本間
8	整形疾患の模擬症例について治療プランを立案できる	本間
9	中枢疾患の模擬症例について問題点を抽出できる	西田
10	中枢疾患の模擬症例について治療プランを立案できる	西田
11	シーティングの基本知識を身に付け説明ができる	西田
12	テーピング療法について適応や禁忌、方法について説明できる	鈴木
13	マニュアルセラピーについて適応や禁忌、方法について説明できる	本間
14	レッドコードについて適応や禁忌、方法について説明できる	本間
15	全授業の重要ポイントを列挙できる	西田

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 専門

科目名	理学療法技術論演習		単位数	2	学科	理学療法	期	後期
			時間数	60	学年	2	区分	必修
科目担当責任者	西田 万里	実務 経歴	平成17年より医療施設に勤務し、小児分野を中心に中枢神経疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験してきた。この経験を活かして疾患論から治療学まで授業を行う。					
担当教員	西田 万里 他							
概要	理学療法技術論にて概説的に学習した各種理学療法テクニックや喀痰等の吸引について、健常者や器具モデルに対し、安全かつ効果的に実施できる能力を身に付ける。臨床でのトピックスなどを取り入れ、より治療法について理解を深める。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	理学療法の対象となる代表的な疾患について、その理学療法経過について理解し、それぞれの疾患別に理学療法技術を理解し、実施できる。E-6)							
教科書	なし							
参考書・教材	「理学療法ハンドブック 第2巻 治療アプローチ 第4版」協同医書出版社 「図解 理学療法技術ガイド」 文光堂 他 適宜資料を配布する。							
履修上の注意点	特になし							
実施回	授業内容						担当教員	
1. 2	ROM-ex を実施し、効果と生理学的変化について説明できる						本間	
3. 4	ブルンストロームアプローチを実施し、効果と生理学的変化について説明できる						本間	
5. 6	DYJOC 訓練を実施し、効果と生理学的変化について説明できる						西田	
7. 8	筋膜リリース、マッサージを実施し、効果と生理学的変化について説明できる						西田	
9. 10	ボバースアプローチを実施し、効果と生理学的変化について説明できる						西田	
11. 12	吸引・吸痰を実施し、効果について説明できる						山内	
13. 14	整形疾患の模擬症例について問題点を抽出できる						本間	
15. 16	整形疾患の模擬症例について治療プランを立案できる						本間	
17. 18	中枢疾患の模擬症例について問題点を抽出できる						西田	
19. 20	中枢疾患の模擬症例について治療プランを立案できる						西田	
21. 22	シーティングを実施し、効果について説明できる						西田	
23. 24	テーピング療法を実施し、効果について説明できる						鈴木	
25. 26	授業内容における重要ポイントを列挙できる						西田	
27. 28	レッドコードを実施し、効果と生理学的変化について説明できる						外部講師	
29. 30	マニュアルセラピーを実施し、効果と生理学的変化について説明できる						外部講師	
成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法					
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。					

科目区分： 理学療法治療学

科目名	地域理学療法学演習	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	伊藤 昇平	実務 経歴	平成 24 年度より急性期，回復期，生活期，緩和医療と幅広い病期において理学療法を経験し，地域医療及び地域と病院の連携について知識を有している．上記に基づいて地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割や実際の疾患に応じた環境調整について指導を行う．
担当教員	伊藤 昇平		

概要	高齢者や障害者の身体機能や生活状況を十分に考慮し，これらに配慮した住宅改修の検討や，福祉用具等の利用についてのアドバイスなどが行えるようになる。福祉住環境コーディネーター2級合格レベルを目指す。
----	---

一般目標 (GIO) 対 応 C C	<p>医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士が実生活の場で対象者支援を行うために福祉住環境の知識を踏まえ、必要な基本的知識を修得する。地域包括ケアシステムが展開されている現在、理学療法士の拡がりを見据えて、介護予防、健康増進などの活動について理解する。E-7)</p> <p><対応 CC コード></p> <p>B3-2)①：医療保険制度について説明できる B3-2)②：介護保険制度について説明できる B3-2)③：年金保険制度について説明できる B3-2)④：労災保険制度について説明できる B3-3)①：保険・医療・福祉の施策の動向について説明できる B3-4)①：バリアフリーの概念について説明できる B3-4)②：ユニバーサルデザインの概念について説明できる B3-4)③：バリアフリー，ユニバーサルデザインに係る法制度について説明できる</p> <p>D15)⑤：老年期障害の一般的疾患について説明できる C4-9)①：老年症候群の分類について説明できる C4-9)②：代表的な老年症候群（認知症，降れいる，サルコペニアなど）の病態について説明できる</p> <p>E4-1)⑩：住環境（生活環境）の課題を把握する評価が実施できる E5-3)⑤：福祉用具の種類を説明できる E5-3)⑥：福祉用具の適用について説明できる E5-3)⑦：車いすの種類を説明できる E7-1)①：地域理学療法における理学療法士の役割について説明できる E7-1)②：地域における理学療法士の役割について説明できる E7-1)③：入所施設における理学療法士の役割について説明できる E7-1)④：通所施設における理学療法士の役割について説明できる E7-1)⑤：訪問における理学療法士の役割について説明できる E7-1)⑥：地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明できる E7-1)⑦：地域における多職種連携について説明できる</p>
-----------------------	---

教科書	ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2級速習テキスト
参考書・教材	適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	高齢者・障害者と福祉住環境整備	伊藤
2	高齢者・障害者を取り巻く社会状況	伊藤
3	日本の福祉住環境	伊藤
4	福祉住環境整備の進め方	伊藤
5	高齢者・障害者の特性	伊藤
6	高齢者に多い疾患	伊藤
7	障害をもたらす疾患	伊藤

8	福祉住環境整備の基本技術	伊藤
9	生活行為別福祉住環境整備の方法Ⅰ	伊藤
10	生活行為別福祉住環境整備の方法Ⅱ	伊藤
11	福祉住環境整備の実践	伊藤
12	福祉用具概論	伊藤
13	福祉用具の使い方Ⅰ	伊藤
14	福祉用具の使い方Ⅱ	伊藤
15	まとめ	伊藤

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	演習内容	100	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：環境整備演習内容及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 理学療法治療学

科目名	中枢神経障害系理学療法学演習		単位数	1	学科	理学昼	期	後期
			時間数	30	学年	2	区分	必修
科目担当責任者	伊藤 昇平	実務 経歴	平成 24 年度より医療施設に勤務し、脳血管障害を中心に理学療法を幅広く経験した。上記経験に基づいて中枢神経障害の基礎的な疾患論、応用的な介入方法や思考過程について指導する。					
担当教員	伊藤 昇平							
概要	脳血管疾患や脳外傷等に伴う神経の損傷に起因する疾患についての病態生理を理解し、病態を考慮した理学療法評価および基本的理学療法を、症例を通じ理解する。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	①各種疾患を考慮し、評価・治療の意義を理解する ②運動負荷およびリスク管理の重要性を理解する ③疾患の病期と動作障害を関連づけて理解する <対応 CC コード> E3-1) ①：理学療法評価の目的と評価方法について説明できる E3-1) ②：理学療法評価実施前のスクリーニング検査について説明できる E3-1) ③：理学療法評価を実施する時期について説明できる E3-1) ④：理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる E3-1) ⑤：理学療法実施にかかわる情報の整理の仕方が説明できる E3-1) ⑥：理学療法実施にかかわる情報の整理ができる E3-1) ⑦：理学療法の目標設定の仕方が説明できる E3-1) ⑧：理学療法プログラムの立案の仕方が説明できる E5-3) ②：義肢装具の適応について説明できる E6-2) ①：中枢神経疾患にかかる理学療法が実施できる E6-2) ②：中枢神経疾患にかかる理学療法について説明できる							
教科書	脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版 文光堂							
参考書・教材	適宜資料を配布する							
履修上の注意点								
実施回	授業内容							担当教員
1	中枢神経障害と理学療法における運動							伊藤
2	脳血管障害リハビリテーションにおけるリスク							伊藤
3	脳血管障害の標準治療、回復メカニズム							伊藤
4	片麻痺患者の動作分析							伊藤
5	半側空間無視、Pusher症候群に対する理学療法							伊藤
6	装具療法、嚥下障害に対する理学療法							伊藤
7	基本動作再獲得に向けたポイント (実践) ①							伊藤
8	基本動作再獲得に向けたポイント (実践) ②							伊藤
9	片麻痺患者の歩行分析 (実践)							伊藤
10	ADL獲得に向けた理学療法、在宅生活での理学療法 (実践)							伊藤
11	筋緊張異常・感覚障害に対する理学療法 (実践)							伊藤
12	廃用症候群予防に向けた取り組みの実際							伊藤
13	ハンドリングの実際 (実践)							伊藤
14	症例検討 (実践) ①							伊藤
15	まとめ							伊藤
成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法					
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価 (実習・実技を含む) 及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。					

科目区分： 専門

科目名	発達障害系理学療法学		単位数	1	学科	理学療法	期	後期
			時間数	30	学年	2年	区分	必修
科目担当責任者	西田 万里	実務 経歴	平成17年より医療施設に勤務し、小児分野を中心に中枢神経疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験してきた。この経験を活かして疾患論から治療学まで授業を行う。					
担当教員	西田 万里							
概要	正常発達を把握した後、発達時期において中枢神経系あるいは末梢神経系に障害を受けた児・者の理学療法の評価・治療方法について学ぶ。主に脳性麻痺について症状、合併症から治療方法の考え方を身に付ける。また二分脊椎について、運動機能評価のしかたや治療法について学ぶ。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	胎生期、乳幼児期における発達過程について理解する。代表的な小児疾患（脳性麻痺）については、疾患概要を理解し、その理学療法経過や治療について説明・実施できるようになる。その他の疾患に関しては疾患概要や理学療法経過を理解し説明できるようになる。C-3、E-6)							
教科書	小児理学療法学テキスト 南江堂 改訂第3版							
参考書・教材	正常発達 第2版 脳性まひの治療アイディア							
履修上の注意点								
実施回	授業内容							担当教員
1	胎生・生後日数の数え方、発達の法則、胎生期の発達について説明できる							西田
2	原始反射・姿勢反応について、刺激と反応、反射の中枢について述べられる							西田
3	正常発達（0～3ヶ月の運動発達）に起こることについて説明できる							西田
4	正常発達（4～6ヶ月の運動発達）に起こることについて説明できる							西田
5	正常発達（7～12ヶ月の運動発達）に起こることについて説明できる							西田
6	上肢機能・口腔機能の発達段階を整理し、粗大運動発達との関連を述べられる							西田
7	平常試験							西田
8	脳性麻痺の総論、概要について説明できる							西田
9	痙直型両麻痺の特徴と治療方針について関連づけられる							西田
10	痙直型四肢麻痺、痙直型片麻痺の特徴と治療方針について関連づけられる							西田
11	アテトーゼ型、失調型の特徴と治療方針について関連づけられる							西田
12	痙直型脳性麻痺の評価と治療を具体的に挙げることができる							西田
13	アテトーゼ型脳性麻痺の評価と治療を具体的に挙げることができる							西田
14	二分脊椎について疾患特徴と分類、治療方針について説明できる							西田
15	全体のまとめとして重要ポイントを列挙できる							西田
成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法					
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席					
	平常試験	10	評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。					

科目区分：理学療法治療学

科目名	物理療法学演習	単位数	2	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内 智恵	実務 経験	医療施設において20年以上、内部障害系疾患、中枢神経疾患、整形外科疾患などを中心に幅広く経験してきた。また管理運営にも携わった経験を活かし授業を行う。
担当教員	山内 智恵		
概要	本演習では前期の物理療法学にて学習した知識を用い、実際に模擬対象者へ物理療法を施行する。安全かつ効果的な物理療法が提供できるように、学内演習を通して実施できるようにする。その際に、効果判定等を通して臨床適応を考察し、レポートにまとめる。		
一般目標 (GIO)	①物理療法機器の適切な使用方法を学習する。 ②事前準備ができる。 ③正確な技術を身につける。 ④自分の考えを紙面に表出することができる。 (E-5-2)		

教科書	crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー
参考書・教材	配布資料
履修上の注意点	生理学・解剖学の復習を随時行い、講義に参加すること。

実施回	授業内容	担当教員
1.2	オリエンテーション・演習内容学習・演習スケジュール作成：各種物理療法の原理・効果を説明できる	山内
3.4	演習1回目(電気刺激療法)：特性を理解し適切な治療を実施し効果判定する事ができる	山内
5.6	演習2回目(TENS)：特性を理解し適切な治療を実施し効果判定する事ができる	山内
7.8	演習内容学習・演習スケジュール作成	山内
9.10	演習3回目(ホットパック・極超短波療法)：特性を理解し適切な治療を実施し効果判定する事ができる	山内
11.12	演習4回目(超音波・パラフィン浴)：特性を理解し適切な治療を実施し効果判定する事ができる	山内
13.14	資料作成	山内
15.16	演習内容学習・演習スケジュール作成	山内
17.18	演習5回目(寒冷療法)：特性を理解し適切な治療を実施し効果判定する事ができる	山内
19.20	演習6回目(バイオフィードバック療法)：特性を理解し適切な治療を実施し効果判定する事ができる	山内
21.22	演習7回目(牽引療法)：特性を理解し適切な治療を実施し効果判定する事ができる	山内
23.24	資料作成	山内
25.26	演習内容学習・演習スケジュール作成	山内
27.28	リスク管理	山内
29.30	臨床推論	山内

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	レポート課題	90%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価(実習・実技を含む)及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価	10%	

科目区分： 理学療法管理学

令和7年度

科目名	理学療法管理学	単位数	2	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内 智恵	実務 経歴	医療施設において20年以上、内部障害系疾患、中枢神経疾患、整形外科疾患などを中心に幅広く経験してきた。また管理運営にも携わった経験を活かし授業を行う。
担当教員	山内 智恵		
概要	理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ（対応CC：E-2-1, E-2-2, E-2-3）		
一般目標（GIO）	職場管理におけるリスクや業務の流れを理解する		

教科書	リハビリテーション管理学第1版 羊土社
参考書・教材	適宜 資料を配布する
履修上の注意点	学生の習熟度を確認し、講義内容、速度を調整する。

実施回	授業内容	担当教員
1	管理学とは：管理学とは何かを学び、説明する事ができる	山内
2	理学療法士が勤務する組織と法規、倫理とは：関連法規・職業倫理を説明できる	山内
3	リスク管理（疾病、合併症、再発）：疾病へのリスク管理ができる	山内
4	リスク管理（定義、医療事故）医療事故について学び安全管理について説明できる	山内
5	リスク管理（急変時対応/一次救命処置、感染）救急法・感染対策を実践できる	山内
6	リスク管理（ハラスメント、クレーム）ハラスメントやクレームに配慮できる	山内
7	リスク管理（転倒、窒息、メンタルヘルス）環境整備について学び、配慮できる	山内
8	病院の管理、運営（収益）病院組織や収益について説明できる	山内
9	病院の管理、運営（専門職、チーム、連携）他職種連携について学び職業イメージをつける事ができる	山内
10	病院の管理、運営（業務、情報、物品）書類や物品管理、個人情報保護について説明できる	山内
11	病院の管理、運営（人事考課、労務管理）人事・労務管理について知り職業イメージをつける事ができる	山内
12	介護保険施設の管理、運営：介護保険施設について学び組織の運営について説明できる	山内
13	卒前教育、臨床実習における管理、運営：実習に関連付ける事ができる	山内
14	その他の管理、運営（研究、会社）：職域について考え討議することができる	山内
15	まとめ	山内

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	95%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
平常評価	5%		

科目名	理学療法研究法演習Ⅱ		単位数	1	学科	理学昼間	期	後期
			時間数	30	学年	2	区分	必修
科目担当責任者	伊藤 昇平	実務 経験	平成24年より医療施設に勤務し、中枢神経系疾患を中心に内部疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験し、全国学会での研究報告を行ってきた。上記経験をもとに理学療法における研究・報告といった一連の流れを実際に体験させ、経験に基づく知識となるよう指導する。					
担当教員	伊藤 昇平							
概要	理学療法における研究の必要性を理解し、研究の形態や目的、仮説、文献検索方法と研究方法の理解と考察、結果分析の方法 など一連の進め方を引き続き学ぶ。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	①文献検索 ②要約 ③パワーポイント (以下PP) による要点発表などを通じ、自らが課題の選択 (研究テーマの設定)、文献考察、要点整理・発表の一連の流れを経験することにより研究に対する一連の手順を学習・理解することを目標とする。 <対応 CC コード> B6-5) ①：研究の意義について説明できる B6-5) ②：研究疑問・研究仮説について説明できる B6-5) ③：研究疑問に応じた研究デザインについて説明できる B6-5) ④：研究疑問に基づき、先行研究を検索することが出来る B6-5) ⑤：先行研究を批判的吟味することが出来る							
教科書	特になし							
参考書・教材	はじめての研究法 第2版 神陵文庫 医学・保健学のためのやさしい統計学 第2版 金原出版							
履修上の注意点	文書作成が講義の主体となる。 積極的に行動し、報告・連絡・相談の徹底。							
実施回	授業内容							担当教員
1	講義オリエンテーション							伊藤
2	研究計画書作成							伊藤
3	文献検索作業 (個人)							伊藤
4	文献抄読作業 (個人)							伊藤
5	文献抄読作業 (個人)							伊藤
6	文献抄読作業 (グループ)							伊藤
7	文献抄読作業 (グループ)							伊藤
8	最終報告書作成 (グループ)							伊藤
9	最終報告書作成 PP作成作業 (グループ)							伊藤
10	PP作成作業・追加検索 (グループ)							伊藤
11	PP作成作業 (グループ)							伊藤
12	PP作成作業 (グループ)							伊藤
13	研究報告①							伊藤
14	研究報告②							伊藤
15	講義まとめ							伊藤
成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法					
	研究内容及び報告内容	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で成績評価をする。 評価方法：出席状況や提出物、発表内容、参加態度などを総合的に評価する。					

科目区分： 専門科目

科目名	臨床運動学	単位数	4	学科	理学療法	期	前期
		時間数	60	学年	2年	区分	必修

科目担当責任者	西田 万里	実務 経歴	平成17年より医療施設に勤務し、小児分野を中心に中枢神経疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験してきた。この経験を活かして運動学系科目について授業を行う。
担当教員	西田 万里		

概要	理学療法の評価・実践のために、1年次運動学で学習した基礎知識をもとに、運動力学的分析を概略的に実施する。正常動作分析の方法を応用し、疾患ごとの動作分析を習得する。
----	---

一般目標 (GIO) 対 応 C C	対象者の動作を観察し、線画や文章などで表現できる。代表疾患の運動、動作分析をし、疾患特有の症状と動作にみられる現象を関連づけることができる。(E-1-2)
-----------------------	---

教科書	観察による歩行分析 医学書院
-----	----------------

参考書・教材	基礎運動学 医歯薬出版 適宜資料を配布する
--------	--------------------------

履修上の注意点	1年次の運動学を復習したうえで講義に参加するのが望ましい
---------	------------------------------

実施回	授業内容	担当教員
1・2	運動と動作について運動学の知識を基に述べることができる	西田
3・4	姿勢を評価する観点を整理し、説明することができる	西田
5・6	動的姿勢バランスの構成について説明することができる	西田
7・8	動的姿勢バランスを成立させる条件に付いて説明することができる	西田
9・10	正常歩行の筋活動と関節運動を関連付けることができる	西田
11・12	身体機能の問題点とそれによって引き起こされる異常動作を関連付けることができる	西田
13・14	まとめ、平常試験	西田
15・16	高齢者の特徴を述べ、それによって引き起こされる運動、動作の異常を説明できる	西田
17・18	脳血管障害（片麻痺）の疾患特徴、症状を述べるができる	西田
19・20	脳血管障害（片麻痺）の運動・動作分析が実施できる	西田
21・22	対麻痺、四肢麻痺の疾患特徴や症状を述べることができる	西田
23・24	対麻痺、四肢麻痺の運動・動作分析が実施できる	西田
25・26	パーキンソン病の運動、動作分析が実施できる	西田
27・28	動作分析の結果から評価項目の抽出ができる	西田
29・30	まとめ	西田

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
	平常試験	10	評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 専門科目

科目名	筋骨格系障害学理学療法学	単位数	2	学科	理学療法	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間 伸晴	実務 経歴	平成15年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担当教員	本間 伸晴 鈴木 由紀子		
概要	筋骨関節疾患は臨床において多い。その為、筋骨関節障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ事が臨床での治療・リハビリテーションに結びつける事が出来る。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	筋骨格障害系理学療法学の対象疾患について理解を深め、実践に役立つ治療展開の方法とリスク管理、治療技術の考え方を身につける。(E6-1)		

教科書	「運動器障害理学療法学テキスト 改訂第3版」 南江堂 「実践！理学療法評価学」 医歯薬出版
参考書・教材	内容を踏まえた資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	総論・運動器構造の復習（運動器に関わる構造と仕組みを習得）	本間
2	脊椎性障害（脊椎の代表疾患の特徴を習得）	本間
3	変形性関節症（総論・脊椎）：（変形性関節症の概要を習得）	本間
4	変形性関節症（膝）：（膝OAの姿勢特性や異常歩行について習得）	本間
5	変形性関節症（股関節）：（股OAにおける姿勢特性や異常歩行について習得）	本間
6	関節軟部組織性障害（靭帯損傷の特性と運動療法について習得）	鈴木
7	関節軟部組織性障害（半月板損傷の特性と運動療法について習得）	鈴木
8	関節構造に由来する障害（関節構成体の異常特性と運動療法について習得）	鈴木
9	骨性障害（上肢骨折の代表疾患について、異常特性と運動療法について習得）	鈴木
10	骨性障害（下肢骨折の代表疾患について、異常特性と運動療法について習得）	鈴木
11	骨性障害（その他骨の代表疾患について、異常特性と運動療法について習得）	鈴木
12	筋・軟部組織性障害（筋の損傷に伴う各疾患の特性について習得）	本間
13	筋・軟部組織性障害（軟部組織の損傷に伴う各疾患の特性について習得）	本間
14	関節リウマチ（RAの異常と重症度におけるリスク管理について習得）	本間
15	まとめ	本間

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	定期試験		
	平常評価		

科目区分： 専門科目

科 目 名	筋骨格系障害学理学療法学演習	単位数	1	学科	理学療法	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間 伸晴	実務 経歴	平成15年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担当教員	本間 伸晴 鈴木 由紀子		

概要	筋骨関節疾患に対する評価及び治療方法を臨床における方法を学ぶ事によって、臨床的な評価の進め方及び治療方法を的確に進める事に結び付けることができる。
----	---

一般目標 (GIO)	①骨・関節疾患に関わる理学療法について説明できる。(E6-1)
対 応 C C	②筋・軟部組織疾患に関わる理学療法について説明できる。(E6-1)

教科書	「運動器障害理学療法学テキスト 改訂第3版」 南江堂 「実践！理学療法評価学」 医歯薬出版
-----	--

参考書・教材	内容を踏まえた資料を配布する。
--------	-----------------

履修上の注意点	特になし
---------	------

実施回	授業内容	担当教員
1	総論・運動器構造の復習（運動器に関わる構造と仕組みを習得）	本間
2	脊椎性障害（脊椎の代表疾患の特徴を習得）	本間
3	変形性関節症（総論・脊椎）：（変形性関節症の概要を習得）	本間
4	変形性関節症（膝）：（膝 OA の姿勢特性や異常歩行について習得）	本間
5	変形性関節症（股関節）：（股 OA における姿勢特性や異常歩行について習得）	本間
6	関節軟部組織性障害（靭帯損傷の異常特性について習得）	鈴木
7	関節軟部組織性障害（靭帯損傷の特性と運動療法について習得）	鈴木
8	関節軟部組織性障害（半月板損傷の特性と運動療法について習得）	鈴木
9	関節構造に由来する障害（関節構成体の異常特性と運動療法について習得）	鈴木
10	骨性障害（上肢骨折の代表疾患について、異常特性と運動療法について習得）	鈴木
11	骨性障害（下肢骨折の代表疾患について、異常特性と運動療法について習得）	鈴木
12	筋・軟部組織性障害（筋の損傷に伴う各疾患の特性について習得）	本間
13	筋・軟部組織性障害（軟部組織の損傷に伴う各疾患の特性について習得）	本間
14	関節リウマチ（RA の異常と重症度におけるリスク管理について習得）	本間
15	まとめ	本間

成 績 評 価	評価手段	割合(%)	基準および方法 受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	定期試験		
	平常評価		

科目区分：理学療法治療学

科目名	内部障害系理学療法学	単位数	2	学科	理学療法	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間 伸晴	実務 経歴	平成15年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担当教員	本間 伸晴 山内 智恵		
概要	内部障害における運動機能低下の特徴を把握できる。理学療法評価と治療に関する基本的知識・技術および理学療法施行上のリスク管理の知識の習得を本講義の目標とする。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	内部障害における代表的な疾患の理解を基に、その理学療法経過における治療展開の仕方とリスク管理について理解することができる。(E-6)		

教科書	「内部障害系理学療法学テキスト」改定第3版	南江堂
参考書・教材	内容を踏まえた資料を配布する。	
履修上の注意点	特になし	

実施回	授業内容	担当教員
1	講義オリエンテーション (内部障害総論、内部障害の理解 疾患別)の解説)	本間
2	循環器系の障害と運動, 循環器疾患と一般的治療 (虚血性心疾患について習得)	本間
3	心筋梗塞急性期の理学療法 (急性期での重症度分類と理学療法の進め方を習得)	本間
4	心筋梗塞回復期・維持期の理学療法 (積極的な理学療法の展開とリスク管理を習得)	本間
5	心不全に対する理学療法 (心不全に至る過程と重症度別の理学療法の進め方を習得)	本間
6	動脈系末梢循環障害の理学療法 (動脈解離とASOの理学療法・リスク管理を習得)	本間
7	運動と呼吸、呼吸器疾患と一般的な治療	山内
8	運動と呼吸、呼吸器疾患と一般的な治療	山内
9	酸素化能、換気能力	山内
10	慢性閉塞性肺疾患の理学療法 (軽症例)	山内
11	拘束性肺疾患 (軽症例)	山内
12	糖尿病患者の障害理解、糖尿病の理学療法 (急性・慢性での障害理解と予防を習得)	本間
13	腎機能の理解と理学療法 (重症度の理解と血液透析の理解と予防を習得)	本間
14	がんの理学療法 (重症度分類と心理・身体的ケアを習得)	本間
15	まとめ	本間

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	90%	受験資格：授業への出席率2/3以上
平常評価	10%	評価基準：①～③を勘案し総合的に科目評価を行う	
			①定期試験：60%以上
			②実技試験：60%以上
			③平常評価：平常試験, レポート, 受講態度等の評価C以上

科目区分： 理学療法治療学

科目名	内部障害系理学療法学演習	単位数	2	学科	理学療法	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間 伸晴	実務 経歴	平成15年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担当教員	本間 伸晴 山内 智恵		
概要	内部障害に起因する機能・運動障害の病態、その回復過程と予後に関する知識をもとに、内部障害系理学療法を実施するためのリスク管理、理学療法評価、運動療法、ADL指導、生活環境支援のための理論と技術を習得する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ (D-12) 代表的な疾患については、その理学療法経過について理解する。(E-6)		

教科書	「内部障害系理学療法学テキスト」改定第3版 南江堂
参考書・教材	内容を踏まえた資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	心ポンプ機能低下、心筋虚血、不整脈（心機能の正常と異常について習得）	本間
2	心電図の基礎知識 ①（正常洞調律と心臓の収縮様式について習得）	本間
3	心電図の基礎知識 ②（頻脈性・徐脈性不整脈の異常性について習得）	本間
4	運動耐容能（有酸素運動とAT値の意義と理解を習得）	本間
5	循環器障害のADLとQOL（最高酸素摂取量と代謝当量、ADLの関係性について習得）	本間
6	動脈系末梢循環障害障害（運動負荷に伴うリスク管理の意義を習得）	本間
7	運動と呼吸	山内
8	全身持久力、息切れ、栄養、呼吸器障害のADL、QOL、その他	山内
9	慢性閉塞性肺疾患の理学療法（重症例）運動経験実技（呼吸練習他）	山内
10	拘束性肺疾患（重症例）運動経験 実技（トレーニング他）	山内
11	開胸術後の理学療法・急性増悪時の理学療法	山内
12	腎機能の理解と理学療法（腎疾患の理学療法とリスク管理について習得）	本間
13	糖尿病患者の障害理解、糖尿病の理学療法（重症度に応じた理学療法とリスク管理）	本間
14	がん患者の理学療法（重症度における心理身体的ケアを習得）	本間
15	まとめ	本間

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：授業への出席率2/3以上 評価基準：①～③を勘案し総合的に科目評価を行う ①定期試験：60%以上 ②実技試験：60%以上 ③平常評価：平常試験，レポート，受講態度等の評価C以上
平常評価	10% 加点		

科目区分： 理学療法治療学

科目名	運動療法学	単位数	2	学科	理学療法	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間 伸晴	実務 経歴	平成15年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担当教員	本間 伸晴		

概要	理学療法士の治療の中核をなす運動療法の基本をしっかりと学び、病態生理・解剖学・運動学などとつなげて運動を捉えられるようになることを目標とする。
----	---

一般目標 (GIO) 対応 C C	安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なくきょうされる基本的な技術について、知識を修得すると共に、学内実習・演習を通して、実施できるようにすることが求められる。特に、「実施できる」「使用する」「実際に行う」とする項目については、実技能力としての修得を確認することが求められる。E-5)
----------------------	---

教科書	「運動療法学テキスト 第3版」 南江堂
参考書・教材	適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	運動療法とは（理学療法の概要と運動療法の位置づけを習得）	本間
2	関節の機能と障害（関節の構造を基に拘縮等の原因分析を習得）	本間
3	関節可動域訓練（凹凸の法則を用い関節運動の意義を習得）	本間
4	筋の機能と障害（筋の構造と仕組みを習得）	本間
5	ストレッチング（主動筋と拮抗筋を用い筋の伸張に関わる仕組みを習得）	本間
6	筋力増強訓練（筋収縮様式に応じた運動強度と実施方法について習得）	本間
7	筋力増強訓練（OKCとCKC肢位による筋のはたらき方を習得）	本間
8	筋持久力増強訓練（筋力と筋持久力の違いについて習得）	本間
9	中間まとめ（前半までの確認）	本間
10	全身持久力訓練（全身持久力の種類と運動強度について習得）	本間
11	協調性訓練（協調性障害の理解と運動の方法について習得）	本間
12	運動と呼吸（運動の強さによる呼吸機能の変化を習得）	本間
13	運動と循環（運動の強さによる循環機能について習得）	本間
14	運動と代謝（運動によるエネルギーの使い方について習得）	本間
15	まとめ	本間

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	90%	受験資格：授業への出席率2/3以上 評価基準：①～③を勘案し総合的に科目評価を行う ①定期試験：60%以上 ②実技試験：60%以上 ③平常評価：平常試験，レポート，受講態度等の評価C以上
平常評価	10%		

科目区分： 理学療法治療学

科目名	運動療法学演習	単位数	2	学科	理学療法	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間 伸晴	実務 経歴	平成15年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担当教員	本間 伸晴		

概要	理学療法士の治療の中核をなす運動療法の基本をしっかりと学び、病態生理・解剖学・運動学などつなげて運動を捉えられるようになることを目標とする。また、対象に対する知識を深め、評価、プログラム立案治療が実施できるよう実習を行なう。
----	--

一般目標 (GIO) 対 応 C C	安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なくきょうされる基本的な技術について、知識を修得すると共に、学内実習・演習を通して、実施できるようにすることが求められる。特に、「実施できる」「使用する」「実際に行う」とする項目については、実技能力としての修得を確認することが求められる。E-5)
-----------------------	---

教科書	「運動療法学テキスト 第3版」 南江堂
参考書・教材	「運動療法学」 文光堂 他、適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	ヒトの身体に触れて治療する際の注意点について習得	本間
2	関節可動域運動①（上肢：関節可動域運動を実践できる）	本間
3	関節可動域運動②（上肢：関節可動域運動を実践できる）	本間
4	関節可動域運動④（下肢：関節可動域運動を実践できる）	本間
5	関節可動域運動⑤（下肢：関節可動域運動を実践できる）	本間
6	ROM制限・筋力低下に対する運動療法 ストレッチング①	本間
7	ROM制限・筋力低下に対する運動療法 ストレッチング②（伸張方法を実践）	本間
8	ROM制限・筋力低下に対する運動療法 筋力トレーニング（筋トレ方法を実践）	本間
9	ROM制限・筋力低下に対する運動療法 筋力トレーニング（運動連鎖を習得する）	本間
10	中間まとめ（関節可動域運動とストレッチにおける実施方法確認）	本間
11	中間まとめ（関節可動域運動とストレッチにおける実施方法確認）	本間
12	持久力低下に対する運動療法（筋持久力と体力の違いを習得する）	本間
13	持久力低下に対する運動療法（対象者に応じた持久力の設定について習得する）	本間
14	運動による呼吸機能変化に対する運動療法（運動強度による違いを理解できる）	本間
15	運動による循環機能の変化に対する運動療法（運動強度による違いを理解できる）	本間

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	実技試験	90%	受験資格：授業への出席率2/3以上
	平常評価	10%	評価基準：①～③を勘案し総合的に科目評価を行う ①定期試験：60%以上 ②実技試験：60%以上 ③平常評価：平常試験，レポート，受講態度等の評価C以上

科目区分： 理学療法治療学

科目名	物理療法学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内 智恵	実務 経歴	医療施設において20年以上、内部障害系疾患、中枢神経疾患、整形外科疾患などを中心に幅広く経験してきた。また管理運営にも携わった経験を活かし授業を行う。
担当教員	山内 智恵		

概要	各物理療法について基礎的な知識を身につけ、臨床場面での適応・禁忌を判断できるようになる。併せて、将来の理学療法士にふさわしい視点と態度を身に付ける。また、後期の物理療法学演習に円滑に移行できるよう学習する。
----	---

一般目標 (GIO)	① 各種物理療法の原理・作用を習得する。(E-5-2) ② 各種物理療法の適応・禁忌を判断できるようになる。(E-5-2) ③ 物理療法適応時の対象者への配慮を考慮することができる。(E-5-2)
------------	--

教科書	crosslink理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	生理学・解剖学の復習を随時行い、講義に参加すること。

実施回	授業内容(到達・行動目標)	担当教員
1	物理療法学総論:各種物理療法の原理・効果を説明できる	山内
2	温熱療法①ホットパック・パラフィン浴:特性を理解し、説明する事ができる	山内
3	温熱療法②極超短波・超短波:特性を理解し、説明する事ができる	山内
4	光線療法:赤外線療法・紫外線・低反応レーザー:特性を理解し、説明する事ができる	山内
5	超音波療法:性能や治療効果について理解し、説明する事ができる	山内
6	寒冷療法:生理学的作用について理解し、説明する事ができる	山内
7	水治療法:生理学的作用について理解し、説明する事ができる	山内
8	牽引療法:生体に与える影響や目的について理解し、説明する事ができる	山内
9	電気刺激療法①総論①電気刺激療法の特性について理解し、説明する事ができる	山内
10	電気刺激療法②総論②電気刺激療法の生理学的作用について説明する事ができる	山内
11	電気刺激療法③各論TENS・NMES:各原理特性について理解し、説明する事ができる	山内
12	電気刺激療法④各論IFC・PNS:各原理特性について理解し、説明する事ができる	山内
13	電気刺激療法⑤各論MES・FES:各原理特性について理解し、説明する事ができる	山内
14	筋電図バイオフィードバック療法:作用機序について理解し、説明する事ができる	山内
15	振動刺激療法・体外衝撃波療法:生理学的作用について理解し、説明する事ができる	山内

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 受験資格:総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領:定期試験における科目評価(実習・実技を含む)及び 平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	定期試験	100%	
	平常評価		

科目区分： 理学療法治療学

科目名	理学療法研究法演習 I	単位数	1	学科	理学療法	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	本間 伸晴	実務 経歴	平成 15 年より医療施設に勤務し、中枢神経疾患、神経内科疾患、整形外科疾患などを中心に臨床現場で幅広く経験してきた。
担当教員	本間 伸晴		

概要	理学療法における研究の必要性を理解し、研究の形態や目的、仮説、文献検索方法と研究方法の理解と考察、結果分析の方法 など一連の進め方を学ぶ。
一般目標 (GIO) 対 応 C C	研究の意義について説明できる。研究疑問・研究仮説について説明できる。 先行研究を吟味する中で研究計画を立案し実践することができる。B-6-5)

教科書	特になし、適宜資料を配布する。
参考書・教材	はじめての研究法 第2版 神陵文庫 医学・保健学のためのやさしい統計学 第2版 金原出版
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	研究法入門 なぜ研究が必要か、研究とは（研究の位置づけと種類について習得）	本間
2	研究法入門 研究デザイン、文献検索（研究デザインの意義を習得）	本間
3	研究法入門 研究デザイン、文献検索（研究デザインの意義を習得）	本間
4	統計入門 基本統計（統計の種類について習得）	本間
5	統計入門 代表値、分布、検定（代表値、分布、検定の言葉の意味を習得）	本間
6	文献検索演習（文献検索ソフトを利用し検索方法を習得できる）	本間
7	研究課題とは（疑問をもつ意義を習得）	本間
8	研究計画の立て方 研究班・テーマ決定（関心のあるテーマから課題を見出せる）	本間
9	研究計画の立て方 研究の展開（テーマ課題から研究デザインに関連付ける）	本間
10	研究計画グループ演習（テーマ課題から研究計画に沿ってP.P作成）	本間
11	研究計画グループ演習（テーマ課題から研究計画に沿ってP.P作成）	本間
12	研究計画グループ演習（発表前最終確認）	本間
13	研究計画演習・進捗状況発表（グループ毎に課題テーマ発表）	本間
14	研究計画演習・進捗状況発表（グループ毎に課題テーマ発表）	本間
15	まとめ	本間

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	60%	受験資格：授業への出席率2/3以上
平常評価 (課題発表)	40%	評価基準：①～③を勘案し総合的に科目評価を行う ①定期試験：60%以上 ②実技試験：60%以上 ③平常評価：平常試験，レポート，受講態度等の評価C以上	

科目区分：理学療法治療学

科目名	神経筋障害系理学療法学	単位数	1	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内智恵	実務 経験	医療施設において20年以上、内部障害系疾患、中枢神経疾患、整形外科疾患などを中心に幅広く経験してきた。また管理運営にも携わった経験を活かし授業を行う。
担当教員	山内智恵		

概要	脳血管疾患や脳外傷を除く、神経および筋の変性に起因する疾患についての病態生理を理解し、病態を考慮した理学療法評価および基本的理学療法を理解する。
----	--

一般目標 (GIO)	代表的な疾患については、その理学療法経過について理解する。なお、それぞれの疾患別に、実習を含めて取り組むことを想定する①「実施できる」とするものと、講義に留めても構わない②「説明できる」とに区分して整理し列挙している。E-6)
------------	---

教科書	「神経障害系理学療法」 医歯薬出版
参考書・教材	「標準理学療法学 専門分野 運動療法学」医学書院 他 適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	総論：概要、種類、神経原性疾患と筋原性疾患の特徴、予後と治療について説明できる	山内
2	パーキンソン病①：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
3	パーキンソン病の理学療法②：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
4	小脳疾患（脊髄小脳変性症）①：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
5	小脳疾患の理学療法②：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
6	症例検討	山内
7	中間まとめ	山内
8	ミオパチ（進行性筋ジストロフィー）①：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
9	ミオパチ（その他、筋疾患）②：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
10	筋萎縮性側索硬化症：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
11	ニューロパチ（ギランバレー症候群）：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
12	脱髄疾患（多発性硬化症）：疾患概要、特徴、予後と治療について説明できる	山内
13	脊髄損傷：疾患概要、特徴について説明できる	山内
14	脊髄損傷・症例検討：予後と治療について説明できる	山内
15	まとめ	山内

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目名	地域理学療法学		単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
			時間数	30	学年	2	区分	必修
科目担当責任者	伊藤 昇平	実務 経歴	平成 24 年度より急性期，回復期，生活期，緩和医療と幅広い病期において理学療法を経験し，地域医療及び地域と病院の連携について知識を有している．上記に基づいて地域リハビリテーションの基礎的部分について指導を行う．					
担当教員	伊藤 昇平							
概要	超高齢社会を迎えた今、社会を支える法制、そしてその変化に対応した新たな視点、取り組みが必要となる。歴史を振り返り、具体的な取り組みの変遷を理解することにより、現代社会のニーズに答え得る地域リハビリテーションを展開することが可能となり、その幅広い対象と実際例を学ぶ。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	<p>実際の生活場面で対象者支援を実行するに必要な知識を学ぶ。又、地域包括ケアシステムが活用、介護予防・健康増進を含めた理学療法士としての知識を学ぶ。</p> <p><対応CCコード></p> <p>E-6-1)②骨関節疾患にかかる理学療法について説明できる</p> <p>E-6-2)②中枢神経疾患にかかる理学療法について説明できる</p> <p>E-6-4)②発達にかかる理学療法について説明できる</p> <p>E-6-5)②呼吸器疾患にかかる理学療法について説明できる</p> <p>E-6-10)①精神疾患に対する理学療法について説明できる</p> <p>E-7-1)①地域理学療法における理学療法士の役割について説明できる</p> <p>E-7-1)②地域における理学療法士の役割について説明できる</p> <p>E-7-1)③入所施設における理学療法士の役割について説明できる</p> <p>E-7-1)④通所施設における理学療法士の役割について説明できる</p> <p>E-7-1)⑤訪問における理学療法士の役割について説明できる</p> <p>E-7-1)⑥地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明できる</p> <p>E-7-1)⑦地域における多職種連携について説明できる</p> <p>E-7-5)①介護予防における理学療法士の役割について説明できる</p> <p>E-7-5)②介護予防における理学療法について説明できる</p> <p>E-7-9)①スポーツ理学療法の概念と考え方について説明できる</p> <p>E-7-9)②スポーツ活動支援における理学療法士の役割について説明できる</p> <p>E-7-9)③スポーツ活動支援の概要と考え方について説明できる</p> <p>E-7-9)④障がい者スポーツ支援の概要と考え方について説明できる</p> <p>E-7-9)⑤障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について説明できる</p>							
教科書	シンプル理学療法学シリーズ地域リハビリテーション学テキスト 改訂第 4 版 南江堂							
参考書・教材	適宜内容を踏まえた資料を配布する。							
履修上の注意点	特に無し							

実施回	授業内容	担当教員
1	総論 地域リハビリテーションとは～制度に関して～	伊藤
2	介護保険サービス概論	伊藤
3	地域包括システム・地域支援事業の中での理学療法士の役割	伊藤
4	事業計画に関わる理学療法士・地域リハビリテーションにおける関連職種の紹介	伊藤
5	介護保険サービス下（生活支援場面）での理学療法（士）	伊藤
6	介護予防と健康増進	伊藤
7	リハビリテーション介入の効果判定	伊藤
8	住環境整備	伊藤
9	障がい者スポーツ・対人援助技術	伊藤
10	疾患・状態像の理解 ①認知症 ②精神領域 ③発達障害	伊藤
11	疾患・状態像の理解 ④慢性呼吸不全 ⑤嚥下困難 ⑥ターミナルケア	伊藤
12	事例検討 ①脳卒中	伊藤
13	事例検討 ②進行性疾患	伊藤
14	事例検討 ③精神疾患 認知症	伊藤
15	事例検討 ④重症心身障害 　　まとめ	伊藤

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の2／3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目名	中枢神経障害系理学療法学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	伊藤 昇平	実務 経歴	平成 24 年度より医療施設に勤務し、脳血管障害を中心に理学療法を幅広く経験した。上記経験に基づいて中枢神経障害の基礎的な疾患論や、神経生理学について指導する。
担当教員	伊藤 昇平		
概要	脳出血や脳梗塞による脳血管障害は後遺症が残ることが多く、リハビリテーションの現場ではよく遭遇する疾患である。近年では運動発達学や神経生理学の知識が評価や治療に応用されている。従ってリハビリテーションに携わる医療従事者は神経学の基礎と臨床の両面における知識が要求される。		
一般目標 (GIO) 対応 CC	脳血管疾患の理学療法を主体に、脳・脊髄にわたる障害の知識を統合し、治療に向かう一連の流れを理解する。 <対応 CC コード> E 6-2) ①：中枢神経疾患にかかる理学療法が実施できる E 6-2) ②：中枢神経疾患にかかる理学療法について説明できる		

教科書	「中枢神経障害系理学療法学テキスト」改訂第3版 南光堂
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	特に無し

実施回	授業内容	担当教員
1	中枢神経障害の全容	伊藤
2	中枢神経障害の全容②	伊藤
3	片麻痺の原因，脳血管障害とは	伊藤
4	中間まとめ	伊藤
5	脳血管障害の診断と急性期治療	伊藤
6	片麻痺患者の評価①	伊藤
7	片麻痺患者の評価②	伊藤
8	重症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際①	伊藤
9	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際①	伊藤
10	日常生活における身体機能の活用	伊藤
11	片麻痺者に見られる合併症とその対策	伊藤
12	高次脳機能障害・嚥下障害と理学療法	伊藤
13	運動失調とは	伊藤
14	小脳性運動失調の理学療法	伊藤
15	パーキンソン病	伊藤

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目名	理学療法評価学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内 智恵	実務 経験	医療施設において20年以上、内部障害系疾患、中枢神経疾患、整形外科疾患などを中心に幅広く経験してきた。また管理運営にも携わった経験を活かし授業を行う。
担当教員	山内智恵 伊藤昇平他		

概要	理学療法を展開するために必要な評価に至るまでの基本的な思考過程と、検査測定 の基礎的知識、画像評価および実際の検査に必要な実技を併せて展開していく。
----	---

一般目標 (GIO)	EBPTにつながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法 プログラム立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。 (E-3-1, E-4-1)
------------	---

教科書	Crosslink 理学療法テキスト 理学療法評価学 理学療法検査・測定ガイド 第2版 (文光堂)
参考書・教材	ベッドサイドの神経の診かた第18版 (南山堂) 他 適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、評価総論について説明できる	山内
2	基礎:理学療法評価・臨床推論の流れ, 記載・記録の重要性 (POS) について説明できる	山内
3	バイタル: バイタルサインを説明できる	山内
4	呼吸・循環器機能評価: 呼吸・循環器障害の関連評価を説明できる	山内
5	筋緊張、反射検査: 筋緊張異常の程度と関連要因を把握する評価を説明する事ができる	山内
6	片麻痺機能検査: 中枢疾患の関連要因を把握する評価を説明できる	山内
7	感覚検査: 感覚異常の程度と関連要因を把握する評価を説明できる	山内
8	高次脳機能障害: 画像評価をもとに高次脳機能障害を把握する評価を説明できる	山内
9	協調性検査、脳神経検査: 協調性障害や脳神経障害の関連評価を説明できる	山内
10	運動発達評価: 発達にかかる評価を説明できる	西田
11	姿勢反射、バランス: 各反射やバランスの程度と関連要因を把握する評価を説明できる	西田
12	痛みの評価: 疼痛の程度と関連要因を把握する評価を説明できる	伊藤
13	姿勢アライメント評価: 姿勢異常の程度と関連要因を把握する評価を説明できる	伊藤
14	運動器疾患評価・形態計測: 整形外科疾患検査や形態計測評価を説明できる	伊藤
15	運動器疾患のまとめ: 運動器疾患の関連評価を説明できる	伊藤

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 受験資格: 総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領: 科目の総合評価は定期試験における科目評価 (実習・実技を含む) 及び平常評価を総合的に評価する。
	定期試験	100	
	平常評価		

科目区分： 理学療法評価学

令和7年度

科目名	理学療法評価学演習 I	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	山内智恵	実務 経験	医療施設において20年以上、内部障害系疾患、中枢神経疾患、 整形外科疾患などを中心に幅広く経験してきた。
担当教員	山内智恵 伊藤昇平他		
概要	理学療法を展開するために必要な評価に至るまでの基本的な思考過程と、検査測定 の基礎的知識、画像評価および実際の検査に必要な実技を併せて展開していく。		
一般目標 (GIO)	疾病に関わりなく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定 技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。(E-3-1, E-4-1, E-6)		

教科書	Crosslink 理学療法テキスト 理学療法評価学 理学療法検査・測定ガイド 第2版 (文光堂)
参考書・教材	ベッドサイドの神経の診かた第18版 (南山堂) 他 適宜資料を配布する。
履修上の注意点	演習では動きやすい服装で参加すること

実施回	授業内容	担当教員
1・2	臨床思考過程とは (ボトムアップ・トップダウン) 理学療法評価・臨床推論の流れについて説明できる	山内
3・4	内部障害系疾患評価①・全身管理：バイタルサイン・フィジカルアセスメントを実施できる 呼吸器疾患にかかる理学療法評価が実施できる	山内
5・6	内部障害系疾患評価 循環器評価②：循環器疾患にかかる理学療法評価が実施できる	山内
7・8	中枢神経疾患評価① 筋緊張、反射検査：中枢神経疾患にかかる理学療法評価が実施できる	山内
9・10	中枢神経疾患評価② Br. stage, SIAS：中枢神経疾患にかかる理学療法評価が実施できる	山内
11・12	中枢神経疾患評価③ 感覚検査：中枢神経疾患にかかる理学療法評価が実施できる	山内
13・14	中枢神経疾患評価④ 高次脳機能評価：中枢神経疾患にかかる理学療法評価が実施できる	山内
15・16	中枢神経疾患評価⑤ 協調性検査、脳神経：中枢神経疾患にかかる理学療法評価が実施できる	山内
17・18	運動発達評価：発達にかかる評価を説明できる	西田
19・20	姿勢反射、バランス：各反射やバランスの程度と関連要因を把握する評価を説明できる	西田
21・22	運動器疾患評価① 痛みの評価：運動器疾患にかかる理学療法評価が実施できる	伊藤
23・24	運動器疾患評価② 機能評価：運動器疾患にかかる理学療法評価が実施できる	伊藤
25・26	運動器疾患評価③ 機能評価：運動器疾患にかかる理学療法評価が実施できる	伊藤
27・28	運動器疾患評価④ 機能評価：運動器疾患にかかる理学療法評価が実施できる	伊藤
29・30	まとめ	山内

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
	平常評価		評価要領：科目の総合評価は、定期試験における科目評価(実習・ 実技を含む)及び平常評価を総合的に評価する。

科目区分： 臨床実習

科目名	総合臨床実習Ⅱ		単位数	8	学科	理学療法	期	後期
			時間数	360	学年	3年	区分	必修
科目担当責任者	西田 万里	実務 経歴	専任教員は全員、臨床実習における指導経験を有する。実習指導者は臨床に5年以上従事し、正規の審査・登録を経ている。					
担当教員	山内 智恵 本間 伸晴 西田 万里 鈴木 由紀子 伊藤 昇平							
概要	専門科目およびこれまでの臨地実習にて身に付けた知識・技術と経験を基礎とし、臨床実習指導者の監督・指導の下で理学療法評価、理学療法プログラム立案と実施、理学療法プログラム実施後の再評価に伴うプログラムの見直しなど、一連の理学療法プロセスを経験する。さらに、チーム医療体制の中での理学療法士の役割、他職種連携を総合的に理解する。また、実習前・実習後の評価要領に基づいた、学生評価情報を臨床実習指導者と共有し、より効果的な教育へ繋げる。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	日本理学療法士協会が「臨床実習の手引き」で提示する水準1に該当する臨床行為について、臨床実習指導者の監督・指導の下で実施すべき項目を対象者へ不利益なく安全に行える。F-4) また、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割や関連職種との連携について理解し、通所リハ、訪問リハ指導要領に基づき対象者への理学療法を見学、一部を経験することを目指す。F-5)							
教科書	配布資料							
参考書・教材	臨床実習指導要領」(当校作成) 適宜 資料を配布する							
履修上の注意	配布資料、「臨床実習指導要領」の内容を理解し、事前の準備に努めること。実習期間中は自己管理(体調、睡眠時間)に努めること。実習生という立場であるが、診療チームの一員として対象者の利益になれるよう行動すること。							
実施回	授業内容						担当教員	
	オリエンテーション：実習日程、進め方、課題、成果の確認方法について						西田・他	
	臨地実習						臨床実習 指導者	
	学内報告会、面談						西田・他	
成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法					
	報告会	80	評価基準：臨地実習への出席率80%以上で成績評定の資格を得る。					
	提出課題	20	評価方法：報告会と提出課題60%以上および出席率や面談などで成果を総合的に判断する。					

科目区分： 専門科目

科目名	臨床理学療法学Ⅲ	単位数	4	学科	理学療法	期	前期
		時間数	60	学年	3年	区分	必修

科目担当責任者	西田 万里	実務 経歴	平成17年より医療施設に勤務し、小児分野を中心に中枢神経疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験してきた。この経験を活かして臨床思考過程について授業を行う。
担当教員	西田 万里		
概要	総合臨床実習で経験したことを基に国家試験に向けた基礎学力の定着と実地問題の解説・理学療法介入について理解する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	総合実習で学んだことを整理し、疾患特性やその治療法について理解を深める。さらにその症状を引き起こす機能的問題点について生理学的機序を確認し解剖生理学を定着させる。(E-3-4、C-1-1、)		

教科書	特になし
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1・2	オリエンテーション、計画作成	西田
3・4	整形疾患について、症状や治療内容を説明できる	西田
5・6	整形疾患の症状の生理学的機序を説明し治療との関係が述べられる	西田
7・8	中枢疾患について、症状や治療内容を説明できる	西田
9・10	中枢疾患の症状の生理学的機序を説明し治療との関係が述べられる	西田
11・12	内部疾患について、症状や治療内容を説明できる	西田
13・14	内部疾患の症状の生理学的機序を説明し治療との関係が述べられる	西田
15・16	神経筋疾患について、症状や治療内容を説明できる	西田
17・18	神経筋疾患の症状の生理学的機序を説明し治療との関係が述べられる	西田
19・20	小児疾患について、症状や治療内容を説明できる	西田
21・22	小児疾患の症状の生理学的機序を説明し治療との関係が述べられる	西田
23・24	脊髄疾患について、症状や治療内容を説明できる	西田
25・26	脊髄疾患の症状の生理学的機序を説明し治療との関係が述べられる	西田
27・28	解剖生理分野確認問題の実施	西田
29・30	実地分野確認問題	西田

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 臨床実習

科目名	総合臨床実習 I		単位数	8	学科	理学療法	期	前期
			時間数	360	学年	3年	区分	必修
科目担当責任者	西田 万里		実務 経歴	専任教員は全員、臨床実習における指導経験を有する。実習指導者は臨床に5年以上従事し、正規の審査・登録を経ている。				
担当教員	西田 万里 伊藤 昇平 山内 智恵 本間 伸晴 鈴木 由紀子							
概要	専門科目およびこれまでの臨地実習にて身に付けた知識・技術を基に、対象者へ理学療法評価を行ない、ICF（国際生活機能分類）に基づき対象者の障害像や全体像を解釈し、目標設定、理学療法プログラム立案およびリスク管理を含めた理学療法介入の基礎について臨床実習指導者の監督・指導の下で実践的に学習する。また、実習前・実習後の評価要領に基づいた、学生評価情報を臨床実習指導者と共有し、より効果的な教育へ繋げる。							
一般目標 (GIO) 対応 C C	日本理学療法士協会が「臨床実習の手引き」で提示する水準1に該当する臨床行為について、臨床実習指導者の監督・指導の下で実施すべき項目を対象者へ不利益なく安全に行える。F-4)							
教科書	配布資料							
参考書・教材	臨床実習指導要領」（当校作成） 適宜 資料を配布する							
履修上の注意	配布資料、「臨床実習指導要領」の内容を理解し、事前の準備に努めること。実習期間中は自己管理（体調、睡眠時間）に努めること。実習生という立場であるが、診療チームの一員として対象者の利益になれるよう行動すること。							
実施回	授業内容							担当教員
	オリエンテーション：実習日程、進め方、課題、成果の確認方法について							西田・他
	臨地実習							臨床実習 指導者
	学内報告会、面談							西田・他
成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法					
	報告会	80	評価基準：臨地実習への出席率80%以上で成績評定の資格を得る。					
	提出課題	20	評価方法：報告会と提出課題 60%以上および出席率や面談などで成果を総合的に判断する。					

科目区分： 専門科目

科目名	臨床理学療法学Ⅱ	単位数	4	学科	理学療法	期	前期
		時間数	60	学年	3年	区分	必修

科目担当責任者	西田 万里	実務 経歴	平成17年より医療施設に勤務し、小児分野を中心に中枢神経疾患、整形外科疾患などを臨床現場で幅広く経験してきた。この経験を活かして臨床思考過程について授業を行う。
担当教員	西田 万里		
概要	評価実習にて経験した患者について、更に思考を深め、問題点や評価項目を整理する。また、文献や成書を参考に治療プログラムを検討。学生同士で実際にプログラムを実施し効果的な方法を検討し考察する。その中から、実際に患者さんに施行するときの注意点や介入方法を学ぶ。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	総合臨床実習へ向けて、対象となる疾病、合併症などにより生じる問題点を、臨床実習指導者の監督・指導の下で解決方法を考え、基礎的な理学療法介入を一部行なえる能力を養う。E-3.4)		

教科書	特になし
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1・2	評価実習時の成果物を振り返り改善点を抽出できる	西田
3・4	対象者の主問題動作を再考し、根拠について述べられる（個人研究）	西田
5・6	主問題動作 ADL との関連性を述べられる（個人研究）	西田
7・8	ICF の関連図が作成できる（個人研究）	西田
9・10	評価項目を抽出できる（個人研究）	西田
11・12	評価意義を説明しリスク管理について述べられる（個人研究）	西田
13・14	中間報告、グループワークにてこれまでの整理した思考過程を簡潔に説明できる	西田
15・16	グループ内で1症例取り上げ、意見交換ができる（グループ研究）	西田
17・18	グループ研究の計画書が作成できる（グループ研究）	西田
19・20	主問題動作と日常生活の関連性、ICF、評価項目とその意義についてグループで討議し PP が作成できる	西田
21・22		西田
23・24		西田
25・26		西田
27・28	グループワーク発表準備	西田
29・30	症例発表	西田

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	課題提出	50	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
	症例発表	50	評価要領：提出物とその報告内容を採点し60%以上、及び出席状況、授業態度などを総合的に評価する。及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 保健医療福祉リハビリテーションの理念

令和 7 年度

科目名	リハビリテーション医学概論	単位数	2	学科	理学	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務 経歴	
担当教員	中嶋 俊雄		

概要	対象者の自立や社会参加に向けた支援をする医療チームの一員として、治療に参加するために必要な基礎知識・技能を培うため、代表的疾患に対するリハビリテーション、QOLの向上、社会復帰、在宅生活などについての学習を行う。
----	--

一般目標 (GIO)	リハビリテーションに関わる障害の評価と治療、他職種連携について学ぶ。 (対応CC : D-3)
------------	--

教科書	学生のためのリハビリテーション医学概論第4版 (医歯薬出版)
参考書・教材	動画を適宜配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	リハビリテーション医学とは何か説明できる	中嶋
2	診断と評価について説明できる	中嶋
3	廃用症候群、誤用症候群、過用症候群について説明できる	中嶋
4	筋疾患、筋ジストロフィーについて説明できる	中嶋
5	関節疾患、慢性関節リウマチ、人工関節について説明できる	中嶋
6	脊髄損傷について説明できる	中嶋
7	脊髄疾患 (二分脊髄を含む) について説明できる	中嶋
8	発達障害について説明できる	中嶋
9	末梢神経障害について説明できる	中嶋
10	脳性麻痺について説明できる	中嶋
11	脳血管障害について説明できる	中嶋
12	切断と義肢について説明できる	中嶋
13	高齢者リハビリテーションについて説明できる	中嶋
14	ハイリスク疾患、癌のリハビリテーションについて説明できる	中嶋
15	内部障害について説明できる	中嶋

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価 (実習・実技を含む) 及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科目名	一般臨床医学（医学概論）	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	池上和洋	実務 経歴
担当教員	池上和洋	

概要	臨床医学全般を概観し、必要な知識について学ぶ。
----	-------------------------

一般目標 (GIO) 対応 CC	医療従事者としての資質のベースとなる知識について知る。医学の基礎知識を習得する。情報の收受選択の方法、優先度の考え方を実例をふまえて考える素養をつける。(対応 CC D-1)
---------------------	---

教科書	からだが見える第1版靭帯の構造と機能(メディアックメディア), 講師プリント使用
-----	--

参考書・教材	
--------	--

履修上の注意点	毎回の復習は確実に実施するように。
---------	-------------------

実施回	授業内容	担当教員
1	医学のあゆみについて説明できる	池上
2	現代医学の問題点（バイオエシックス インフォームドコンセント）について説明できる	池上
3	産科学（妊娠と周産期）について説明できる	池上
4	婦人科学について説明できる	池上
5	頭部外傷と脳障害について説明できる	池上
6	内部障害としての腎透析について説明できる	池上
7	QOLを高めるためのターミナルケアについて説明できる	池上
8	耳鼻科疾患と障害について説明できる	池上
9	眼科疾患と障害について説明できる	池上
10	精神科疾患について説明できる	池上
11	スポーツ医学について説明できる	池上
12	救命救急医療について説明できる	池上
13	泌尿器・生殖器疾患について説明できる	池上
14	皮膚科疾患について説明できる	池上
15	老人医療について説明できる	池上

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活、社会の理解

科目名	英語		単位数	2	学科	理学療法	期	後期
			時間数	30	学年	1年	区分	必須
科目担当責任者	堀 琴美	実務 経歴						
担当教員	堀 琴美							
概要	医療現場で英語のコミュニケーションができるようになるために、PT・OTがよく使う英語の表現方法や医療用語を学修する。その中で基本的な英文法をおさらいし、日常会話程度の英文が読める・わかる・使えるように練習する。							
一般目標 (GIO) 対 応 C C	<ol style="list-style-type: none"> 挨拶や日常英会話を理解し、使えるようになる。 基本的な身体部位や痛み、肢位の語彙や表現を理解し、使えるようになる。 病院内の診療科、職名、案内の基本的な表現を覚え、使えるようになる。 基本的な英文法を再習得し、英文理解の土台を固める。 							
教科書	「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」メジカルビュー社							
参考書・教材	教科書（音声ダウンロード利用可）、補助プリントを授業の中で配布する。							
履修上の注意点	1コマ1コマの授業をしっかりと聞き、毎回の授業を受けるだけで期末試験に備えるつもりで臨んでください。授業中の居眠り、私語、内職を禁止します。							
実施回	授業内容							担当教員
1	オリエンテーション、コミュニケーションの基礎（自己紹介ができる）							堀
2	リハビリテーションの英語Ⅰ（痛むところを聞くことができる）							堀
3	リハビリテーションの英語Ⅱ（痛みの表現に対して相づちを打つことができる）							堀
4	リハビリテーションの英語Ⅲ（痛みの経過を聞くための時制を使い分けられる）							堀
5	自閉症の子どもⅠ（子どもを題材にした短いストーリーを理解できる）							堀
6	自閉症の子どもⅡ（自閉症の特徴について、登場人物の語りを理解できる）							堀
7	日常の動作Ⅰ（料理のレシピをみて、内容を説明できる）							堀
8	日常の動作Ⅱ（片手で着衣する映像を見て、解説に従って動作できる）							堀
9	日常の動作Ⅲ（食事の基本的な動作を表現できる）							堀
10	日常の動作と会話Ⅳ（ポピュラーソングの意味を理解し、歌うことができる）							堀
11	道案内の英会話（基本的なパターンを使って道案内ができる）							堀
12	病院で使う英語（診療科や職名を使って、館内の案内ができる）							堀
13	リハビリテーションの英語Ⅳ（基本的な肢位の表現法を使うことができる）							堀
14	リハビリテーションの英語Ⅴ（応用的な肢位の表現法を使うことができる）							堀
15	まとめと補足（頻回に使う言葉や重要な表現について確認することができる）							堀
成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法					
	定期試験	80%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び 平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。					
	受講態度	10%						
	発言内容	10%						

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科目名	画像診断学	単位数	2	学科	理学	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	箕輪 和行	実務 経歴	
担当教員	箕輪 和行		

概要	近年、画像診断技術の驚異的な発展が続いている。コンピュータ断層診断（CT）、磁気共鳴画像診断（MRI）の導入は診断能力を大きく向上させた。これら医用画像をもとに、画像診断所見や臨床情報を習得する。
----	--

一般目標（GIO）	EBPTにつながる基本として、理学療法の実施に関する医用画像（CT、MRI、超音波エコー画像など）の評価を理解する。対応CC：E-4-2①②③
-----------	---

教科書	「PT・OTのための画像診断マニュアル」（医学教育出版社）
参考書・教材	適宜資料を配布する。
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	脳神経 の画像について説明できる	箕輪
2	脊髄：先天性病変 の画像について説明できる	箕輪
3	：腫瘍	箕輪
4	頭頸部：先天性疾患 の画像について説明できる	箕輪
5	：腫瘍	箕輪
6	胸部：呼吸 の画像について説明できる	箕輪
7	：心臓	箕輪
8	：大血管	箕輪
9	腹部：肝臓 の画像について説明できる	箕輪
10	：膵臓	箕輪
11	：脾臓	箕輪
12	消化器 の画像について説明できる	箕輪
13	骨盤 の画像について説明できる	箕輪
14	筋骨格系：肩関節・肘関節・手関節 の画像について説明できる	箕輪
15	：股関節・膝関節・足関節 の画像について説明できる	箕輪

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
			評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 人体の構造機能及び心身の発達

科目名	解剖学	単位数	4	学科	理学	期	前期
		時間数	60	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務 経歴	
担当教員	中嶋 俊雄		

概要	人体の構造を学び、各器官の形態と機能について理解を深める。
一般目標 (GIO)	さまざまな側面から人間を理解する上で、また、理学療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で不可欠である基礎医学的知識を学ぶ。 (対応CC : C-1-3)

教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「解剖学 第6版」(医学書院) 「ぜんぶわかる人体解剖図」(成美堂出版)
参考書・教材	動画を適宜配布
履修上の注意点	教科書の予習、講義後の復習が求められるだけでなく、練習問題への取り組みが必須である。

実施回	授業内容	担当教員
1・2	<総論> ① 人体の区分と身体各部の名称について説明できる	中嶋
3・4	② 全身の骨格の構造と骨の名称について説明できる	中嶋
5・6	<各論> 頭部、顔面部、頸部の解剖 ① 脳と脊髄について説明できる	中嶋
7・8	② 目、耳、鼻について説明できる	中嶋
9・10	③ 口腔、咽頭、喉頭について説明できる	中嶋
11・12	胸部の解剖 ① 呼吸器(肺と気管)について説明できる	中嶋
13・14	② 循環器(心臓と血管)について説明できる	中嶋
15・16	腹部の解剖 ① 消化器(胃、小腸、大腸、肝臓、膵・脾臓)について説明できる	中嶋
17・18	② 泌尿器(腎臓、膀胱)、生殖器について説明できる	中嶋
19・20	上肢の解剖 ① 肩甲骨、骨格と筋肉について説明できる	中嶋
21・22	② 上肢の血管と神経、手の骨格と筋肉について説明できる	中嶋
23・24	下肢の解剖 ① 下肢の骨格と筋肉について説明できる	中嶋
25・26	② 下肢の骨格と血管、足の骨格と筋肉について説明できる	中嶋
27・28	全身に広がる神経網、内分泌について説明できる	中嶋
29・30	<総まとめ>	中嶋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価(実習・実技を含む)及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 科学的思考の基盤、人間と生活社会の理解

科目名	社会福祉学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	宮越 美佳	実務 経歴	建築系専門学校にて、建築分野の法制度を教授。福祉系、医療系専門学校にて、社会福祉法制度論、建築法制度も含めた福祉住環境整備について教授。大学院では、豪雪地域における環境と生活をテーマに研究を行い、修士課程を修了。
担当教員	宮越 美佳		
概要	社会福祉の働きを学習するとともに、生活問題の原因と状況、その解決や予防について社会福祉の制度や援助実践がどのように行われているのかを概観し、社会福祉の理解を深める。また、患者・家族・他職種専門職とのコミュニケーションを通じて良好な人間関係を築く。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	作業・理学療法 of 成務を遂行する上で必要とされる社会福祉関係法規、自分自身を自己知覚し、クライアントや他職種 人との関係において必要とされるコミュニケーション力など、実践上必要とされる知識の習得を目指す。		

教科書	レジュメ(レジュメをまとめるファイル等各自用意すること)
参考書・教材	特になし
履修上の注意点	講義ごとに社会福祉援助技術演習を行うので、前講義に次講義に必要な物品を指示する

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、第1章 社会福祉学とは何か	宮越
2	第2章 社会福祉学の歴史的展開	宮越
3	第3章 社会福祉関係法規の流れ	宮越
4	第4章 介護保険法	宮越
5	第5章 障害者(児)の福祉の制度とサービス	宮越
6	第6章 障害者自立支援法	宮越
7	第7章 医療制度	宮越
8	第8章 所得保障	宮越
9	第9章 年金制度	宮越
10	第10章 生活保護	宮越
11	第11章 権利擁護	宮越
12	第12章 ノーマライゼーション、第13章 インフォームド・コンセント	宮越
13	第14章 ケースワークの原則 1	宮越
14	第14章 ケースワークの原則 2	宮越
15	第15章 環境の福祉	宮越

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験		評価基準：試験を基礎とし、レポート加点、及び出席、授業態度を減点とする(満点は100点)。 評価方法：出席(すべての授業を出席した学生との点数の差であって、単位取得のための出席日数とは関係がない)については、欠席ごとに2点減点及び授業態度、主に寝ている学生(は起こす)2点減点を勘案する
	平常評価		

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

令和7年度

科目名	小児科学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	池上和洋	実務 経歴
担当教員	池上和洋	

概要	将来、現場で小児に携わるようになった時、少なくとも最初の数年の間にぶつかるであろう小児の諸問題について学ぶ。特に、療育という場面で小児に接することが多いと予想されるので、小児神経の領域、未熟児・新生児、重症心身障害児等の疾患について学習する。
----	---

一般目標 (GIO) 対 応 C C	小児の障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を理解する (対応 CC D-11)
-----------------------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版
参考書・教材	
履修上の注意点	毎回の復習は確実に実施するように

実施回	授業内容	担当教員
1	小児科学概論について説明できる	池上
2	診断と治療の概念について説明できる	池上
3	新生児・未熟児疾患について説明できる	池上
4	先天異常と遺伝病について説明できる	池上
5	神経・筋・骨系疾患について説明できる	池上
6	循環器疾患について説明できる	池上
7	呼吸器疾患について説明できる	池上
8	感染症について説明できる	池上
9	消化器疾患について説明できる	池上
10	内分泌・代謝疾患について説明できる	池上
11	血液疾患について説明できる	池上
12	免疫・アレルギー疾患、膠原病について説明できる	池上
13	腎・泌尿器系、生殖器疾患について説明できる	池上
14	腫瘍性疾患について説明できる	池上
15	心身症、神経症等について説明できる	池上

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	定期試験		
	平常評価		

科目区分：

令和7年度

科目名	心理学	単位数	2	学科	理学昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	新井田 光希	実務 経歴	
担当教員	新井田 光希		

概要	現代心理学の基本的な理論と考え方を概説し、具体的な人間理解とその基本的技法について考察し、理学療法士として必要な理学的な基礎知識を習得する。
----	--

一般目標 (GIO) 対 応 C C	現代心理学の視点に基づいて人間について考察する
-----------------------	-------------------------

教科書	「はじめて出会う心理学 第3版」
-----	------------------

参考書・教材	
--------	--

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	担当教員
1	心理学とは（心理学の歴史や態度を説明できる）	新井田
2	感覚・知覚Ⅰ（感覚の性質や仕組みを説明できる）	新井田
3	感覚・知覚Ⅱ（知覚の性質や機能を説明できる）	新井田
4	学習と条件付けⅠ（学習とは何かと古典的条件付けについて説明できる）	新井田
5	学習と条件付けⅡ（オペラント条件付けとその他の学習について説明できる）	新井田
6	記憶Ⅰ（記憶の過程を区別できる）	新井田
7	記憶Ⅱ（記憶の過程の各段階について説明できる）	新井田
8	言語と思考（言語や思考の仕組みを説明できる）	新井田
9	欲求・動機づけ（欲求や動機づけの種類や仕組みを説明できる）	新井田
10	感情・情動（感情や情動の理論について説明できる）	新井田
11	発達（発達の理論について説明できる）	新井田
12	脳と心（脳と心の関係について説明できる）	新井田
13	人格（人格の測定法や理論について説明できる）	新井田
14	知能（知能の測定法や理論について説明できる）	新井田
15	社会的認知（社会的状況での心の機能を説明できる）	新井田

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常点	10	

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科目名	神経内科学	単位数	2	学科	理学	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	五十嵐 洋介	実務 経歴	
担当教員	五十嵐 洋介		

概要	理学療法士国家試験の概要を正しく把握し、国家試験に確実に現役合格するための作戦を考える。 各種神経疾患を学びながら、上記①について実践していく。
----	---

一般目標 (GIO)	精神障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。 (対応 CC D-9、D-10)
------------	---

教科書	「神経内科学」第6版(医学書院) 「病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版」(メディックメディア) 「PT・OT 国家試験 必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学編・臨床医学編 2025年版」 (医歯薬出版)
-----	--

参考書・教材	適宜資料を配布する
--------	-----------

履修上の注意点	復習は毎回行うこと
---------	-----------

実施回	授業内容	担当教員
1	ガイダンス「敵(国家試験)を“正しく”知ろう!」「“努力の方向音痴”にならない為に」	五十嵐
2	脳血管障害①(解剖・生理・急性期症状)	五十嵐
3	脳血管障害②(脳血栓症と脳塞栓症、一過性脳虚血発作(TIA)、脳内出血)	五十嵐
4	脳血管障害③(くも膜下出血、正常圧水頭症、動静脈奇形、もやもや病、硬膜下血腫)	五十嵐
5	脳血管障害④(国家試験問題演習・解説など)	五十嵐
6	変性疾患①(大脳基底核障害(パーキンソン病)を中心に)	五十嵐
7	変性疾患②(小脳障害(オリブ橋小脳萎縮症)を中心に)	五十嵐
8	脳神経、球麻痺・仮性球麻痺/頭蓋内腫瘍	五十嵐
9	頭蓋内圧亢進症、上位/下位運動ニューロン障害	五十嵐
10	筋萎縮性側索硬化症(ALS)、錐体路など(伝導路3経路をしっかり理解しよう!)	五十嵐
11	感覚障害(ブラウン・セカール症候群、脊髄空洞症など)/脱髄性疾患①(多発性硬化症)	五十嵐
12	脱髄性疾患②(ギラン・バレー症候群)/末梢神経障害、多発神経炎	五十嵐
13	筋疾患(筋原性・神経原性筋萎縮筋ジストロフィー)/神経筋接合部疾患(重症筋無力症)	五十嵐
14	複合問題(神経疾患の特徴、変性疾患(病理)、性差、異常歩行など)	五十嵐
15	錐体外路症状、脳波、髄膜刺激症状、神経疾患の評価、JCS/GCS、CNS感染症など	五十嵐

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価(実習・実技を含む)及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分：

令和7年度

科目名	人間発達学	単位数	2	学科	PT・OT	期	
		時間数	30	学年	1	区分	

科目担当責任者	榎 洋一	実務 経歴	北海道大学，北海道教育大学，札幌市立大学，札幌学院大学，北翔大学，北海道科学大学で心理学および医療系の講義を多数担当した経歴がある。この経歴を活かして，講義を行っていく。
担当教員	榎 洋一		
概要	人間の発達について，誕生から死に至る過程に沿って概説していく。身体，運動，心理といった側面について，それぞれの時期で生じる発達の特徴について学ぶ。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	人の生涯の中で生じる身体，運動，心理といった側面の発達について，それぞれの時期の特徴を理解する。		

教科書	大城・儀間(編) リハビリテーションのための人間発達学 [第3版]，メディカルプレス
参考書・教材	授業ごとに講師が作成した資料を配布する
履修上の注意点	毎回講義で配布されるまとめ用の小テストを使って要点を覚えるようにしてください。

実施回	授業内容	担当教員
1	人間発達学の概要（発達に関する基本用語を学び，その意味を説明できる）	榎
2	発達の原理（発達の原理を学び，その意味を説明できる）	榎
3	発達の主要理論（ピアジェとエリクソンの発達理論を学び，その概要を説明できる）	榎
4	胎児期の発達（受精から出生に至る過程を学び，その流れを説明できる）	榎
5	乳児期の発達1（乳児の身体・運動の発達を学び，特に原始反射を説明できる）	榎
6	乳児期の発達2（乳児の運動発達を学び，歩行に至る運動制御を説明できる）	榎
7	乳児期の発達3（乳児の愛着の発達を学び，その意味を説明できる）	榎
8	幼児期の発達1（幼児の身体・運動の発達を学び，可能になる運動を説明できる）	榎
9	幼児期の発達2（乳幼児の言語発達を学び，言語発達のレベルを説明できる）	榎
10	児童期の発達1（児童期の身体・運動の発達を学び，その特徴を説明できる）	榎
11	児童期の発達2（児童期の認知の発達を学び，その特徴を説明できる）	榎
12	青年期の発達（青年期の身体，運動，心理の側面を学び，その特徴を説明できる）	榎
13	成人期の発達（成人期の身体，運動，心理の側面を学び，その特徴を説明できる）	榎
14	高齢期の発達（高齢期の身体，運動，心理の側面を学び，その特徴を説明できる）	榎
15	総まとめ	榎

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	授業態度	20%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	定期試験	80%	

科目区分： 基礎科目

科目名	生物学	単位数	2	学科	理学療法学科	期	前期
		時間数	30	学年	1学年	区分	必修

科目担当責任者	守屋 開	実務 経歴	生物学を長年研究し、教育に携わってきた。この経験を活かして、生物学について授業を行う。
担当教員	守屋 開		

概要	生きのびるために最善を尽くし、受け継ぐものへエネルギーをつぎ込む生物の営みの本質を理解することにより、人間について様々な角度から考察できるようにする。また、生きとし生けるものを慈しむ細やかな心を持ち、幅広い科学的な感性を身につけて、今後の学習や生活に反映させるとともに、理学療法や将来に役立てるようにする。
----	---

一般目標 (GIO) 対 応 C C	理学療法における専門基礎科目や専門科目の基礎となるヒトを含む生物の体の構造や様々な反応について考察し、ヒトの体の本質を理解する。
-----------------------	--

教科書	生物学配付資料
-----	---------

参考書・教材	生物学配付資料、パワーポイント資料
--------	-------------------

履修上の注意点	最新情報も含め、生物学に興味関心を示し、学則及び履修規定にもとづき学習する。
---------	--

実施回	授業内容	担当教員
1	地球と生命を学び、自然現象を基本的な科学的手法を使って計測できる。	守屋
2	生物の特徴を学び、無生物・細胞・組織・器官・個体の本質を説明できる。	守屋
3	酵素と代謝を学び、酵素・代謝・エネルギーを関連づけて述べることができる。	守屋
4	体内の環境を学び、恒常性・自律神経系・ホルモンの関連を比較説明できる。	守屋
5	生体の防御を学び、自己と非自己・免疫のシステムを述べることができる。	守屋
6	生殖と遺伝を学び、減数分裂・生殖・遺伝の関係を説明できる。	守屋
7	遺伝の情報を学び、染色体・DNA・遺伝情報を関連づけることができる。	守屋
8	発生と分化を学び、卵の発生や形態形成において、ヒトとの共通性を説明できる。	守屋
9	植物の反応を学び、環境応答・ホルモンで動物との共通性と相違性を比較できる。	守屋
10	動物の反応を学び、受容器・神経系・効果器の反応をヒト中心に説明できる。	守屋
11	動物の行動を学び、フェロモンを含む情報伝達方法と行動の違いを区別できる。	守屋
12	生態と環境を学び、景観や生態系・個体群・多様性と人間との関係を説明できる。	守屋
13	生活と生物を学び、医療と関連づけることができ、環境や趣味にも配慮できる。	守屋
14	生物の進化を学び、生物の変遷・進化理論からヒトに応用できる。	守屋
15	生物の系統を学び、種同定や分類手法・研究から生物を系統分類できる。	守屋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	90	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
参加態度	10		

科目区分： 人体の構造機能及び心身の発達

科目名	生理学	単位数	4	学科	理学	期	前期
		時間数	60	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務 経歴	
担当教員	中嶋 俊雄		

概要	人体の生理機能のうち動物的機能と呼ばれる部分（神経・筋肉・運動・感覚等）と植物的機能（内臓機能—循環・呼吸・消化・排泄・内分泌等）中心に講義する。
----	---

一般目標（GIO）	さまざまな側面から人間を理解する上で、また、理学療法の対象疾患・障害の病態や発症メカニズムを理解する上で不可欠である基礎医学的知識を学ぶ。（対応CC：C-1）
-----------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「生理学 第6版」（医学書院） シンプル生理学 改訂第8版
-----	---

参考書・教材	動画を適宜配布
--------	---------

履修上の注意点	教科書の予習、講義後の復習が求められるだけでなく、練習問題への取組みが必須である。
---------	---

実施回	授業内容	担当教員
1・2	生命現象と人体、細胞の構造と機能について説明できる	中嶋
3・4	神経の興奮伝達とシナプスについて説明できる	中嶋
5・6	末梢神経系と中枢神経系、自律神経系について説明できる	中嶋
7・8	中枢神経1（脊髄、脳幹）、中枢神経2（小脳、大脳基底核、大脳辺縁系）について説明できる	中嶋
9・10	中枢神経3（大脳皮質、A B神経系）について説明できる	中嶋
11・12	筋系と骨系、感覚器系1（一般的性質、体性感覚）について説明できる	中嶋
13・14	感覚器系2（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、平衡感覚）について説明できる	中嶋
15・16	血液の機能、循環器系の機能について説明できる	中嶋
17・18	呼吸器系の機能について説明できる	中嶋
19・20	泌尿器系の機能について説明できる	中嶋
21・22	水分調節と酸塩基平衡について説明できる	中嶋
23・24	消化器系の機能について説明できる	中嶋
25・26	内分泌系の機能1、内分泌系の機能2 について説明できる	中嶋
27・28	代謝と体温調節について説明できる	中嶋
29・30	生殖器系の機能、運動生理について説明できる	中嶋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 人体の構造機能及び心身の発達

科目名	生理学演習	単位数	2	学科	理学	期	後期
		時間数	60	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	中嶋 俊雄	実務 経歴	
担当教員	中嶋 俊雄		

概要	生理学の講義で得られた知識を実習を通して、より深く理解する。実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、出来る限り詳細な記録、観察を心がけ、より深い分析力、考察力を身につける。
----	--

一般目標 (GIO)	さまざまな側面から人間を理解する上で、また、理学療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で不可欠である基礎医学的知識を学ぶ。(対応CC：C-1)
------------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「生理学 第6版」(医学書院) シンプル生理学 改訂第8版
-----	---

参考書・教材	講師よりプリント、動画を適宜配布
--------	------------------

履修上の注意点	教科書の予習、講義後の復習が望まれるだけでなく、練習問題への取組みが必須である。
---------	--

実施回	授業内容	担当教員
1・2	実習の目的、進め方、レポートの書き方について説明できる	中嶋
3・4	実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について説明できる	中嶋
5・6	循環：心電図について説明し検査を実施できる	中嶋
7・8	循環：血圧・心音・脈拍について説明し検査を実施できる	中嶋
9・10	呼吸：呼吸曲線と呼吸気量について説明し検査を実施できる	中嶋
11・12	呼吸：1秒率・呼吸運動について説明し検査を実施できる	中嶋
13・14	筋電図(基本時の筋電図)について説明し検査を実施できる	中嶋
15・16	筋電図(誘発筋電図①)について説明し検査を実施できる	中嶋
17・18	筋電図(誘発筋電図②)について説明し検査を実施できる	中嶋
19・20	筋電図：神経伝導速度について説明し検査を実施できる	中嶋
21・22	神経・筋：筋萎縮、加重・強縮について説明できる	中嶋
23・24	脳波：基本脳波について説明し検査を実施できる	中嶋
25・26	脳波：賦活脳波、睡眠脳波、誘発脳波について説明できる	中嶋
27・28	感覚：体性感覚(皮膚の感覚点・2点識別・重量感覚)について説明できる	中嶋
29・30	感覚：聴力、平衡感覚について説明できる	中嶋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席
			評価要領：定期試験における科目評価(実習・実技を含む)及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科目名	精神医学	単位数	2	学科	理学	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	五十嵐 洋介	実務 経歴	
担当教員	五十嵐 洋介		
概要	精神医学の総論及び各論、特に各種の精神症、精神病（統合失調症、躁うつ病等）及び脳器質性症候群の具体像について講義する。		
一般目標（GIO）	精神障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。 （対応CC D-6）		

教科書	「こころの健康がみえる 第1版」（メディックメディア） 「病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版」（メディックメディア） 「PT・OT 国家試験 必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学編 2025年版」 （医歯薬出版）
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	復習は毎回行うこと

実施回	授業内容	担当教員
1	ガイダンス「敵（国家試験）を“正しく”知ろう！」「努力の方向音痴”にならない為に”	五十嵐
2	統合失調症① 幻覚と妄想、症例の見方、物事を“深く”みるとは？無意識の意識化	五十嵐
3	統合失調症② 幻覚のいろいろ、思考障害「専門用語に慣れていこう！」	五十嵐
4	統合失調症③ 陽性症状と陰性症状	五十嵐
5	統合失調症④（古典的）病型分類、薬物療法など	五十嵐
6	気分（感情）障害① 国家試験問題解説/うつ病、躁病とは？	五十嵐
7	気分（感情）障害② うつ病、躁病の特徴について深く（自殺にも触れる）	五十嵐
8	気分（感情）障害③ 睡眠障害（不眠症）、診断基準（ICD-10、DSM-IV）、薬物療法など	五十嵐
9	認知症① 国家試験問題解説/Alzheimer型認知症、脳血管性認知症	五十嵐
10	認知症② Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症、Korsakoff症候群、HDS-R/MMSEなど	五十嵐
11	せん妄/依存・中毒① 国家試験問題解説/せん妄、依存の3要素	五十嵐
12	依存・中毒②/薬物療法① アルコール依存症など、向精神薬と抗精神病薬の違いは？	五十嵐
13	薬物療法②/てんかん① 向精神薬各論/てんかん5種類	五十嵐
14	てんかん②/ストレス関連障害 パニック症、社交不安症、強迫症、解離/転換症群など	五十嵐
15	摂食症/PTSD/精神遅滞/児童・思春期の精神症群/人格症/睡眠障害群など	五十嵐

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科目名	内科学	単位数	2	学科	理学昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	池上和洋	実務 経歴	
担当教員	池上和洋		

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士にとって必要とされる内科的知識を習得する ・理学療法士国家試験のための基礎学力を習得する ・医療従事者として必要とされる最低限度のモラルを習得する
一般目標 (GIO) 対 応 C C	内部障害を引き起こす主な疾患の病因, 病態生理, 症候, 診断と治療を理解する (対応 CC D-12)

教科書	メディカルスタッフのための内科学 第5版
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	担当教員
1	臨床医学総論 症状とその臨床学的意義について説明できる	池上
2	感染症について説明できる	池上
3	アレルギー疾患, 自己免疫疾患, 膠原病, 免疫不全について説明できる	池上
4	循環器疾患について説明できる	池上
5	心電図について説明できる	池上
6	呼吸器疾患について説明できる	池上
7	消化器疾患について説明できる	池上
8	肝・胆・膵疾患について説明できる	池上
9	内分泌疾患について説明できる	池上
10	代謝疾患について説明できる	池上
11	血液造血器疾患について説明できる	池上
12	腎 泌尿器疾患について説明できる	池上
13	中毒 環境に基づく疾患について説明できる	池上
14	脳血管疾患について説明できる	池上
15	変性疾患について説明できる	池上

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験		受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	平常評価		

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科目名	病理学概論	単位数	2	学科	理学	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	山野 茂	実務 経歴	
担当教員	山野 茂		
概要	基本病変及び主要疾患の原因・発生機序について、その形態学的変化とあわせて講義する。		
一般目標 (GIO)	病理学の基本的事項、代表的な疾患について正しく理解し、説明できること。 (対応CC : C-4)		

教科書	「カラーで学べる 病理学」改訂第6版 (ヌーヴェル・ヒロカワ)
参考書・教材	
履修上の注意点	特になし

実施回	授業内容	担当教員
1	病理学の領域について説明できる	山野
2	細胞・組織とその障害について説明できる	山野
3	生涯組織の再生と修復過程について説明できる	山野
4	循環障害について説明できる	山野
5	炎症について説明できる	山野
6	免疫とアレルギーについて説明できる	山野
7	感染症について説明できる	山野
8	代謝異常について説明できる	山野
9	老化と老年病について説明できる	山野
10	新生児の病理について説明できる	山野
11	先天異常について説明できる	山野
12	腫瘍について説明できる	山野
13	生命の危機的状態について説明できる	山野
14	循環器系の代表的疾患について説明できる	山野
15	脳神経系の代表的疾患について説明できる	山野

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100%	受験資格：総授業時間数の2/3以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価（実習・実技を含む）及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。

科目区分： 疾病と障害の成立及び回復過程の促進

科目名	臨床心理学	単位数	2	学科	理学療法	期	前期
		時間数	30	学年	1年	区分	必須

科目担当責任者	堀 琴美	実務 経歴	臨床心理士・公認心理師の資格を有し、医療臨床経験や、福祉施設、大学の教育・臨床経験がある。これらの幅広い知識と経験を活かし、実践的でわかりやすい授業を行う。
担当教員	堀 琴美		
概要	臨床心理学は心に悩みを持つ人が問題を解決できるように援助するための学問である。障害や疾病を持つ人の状況や気持ちを理解し、行動や思考の仕組みを紐解き、心理的支援の在り方や、アセスメントの方法、発達障害や精神障害などについて学修する。		
一般目標 (GIO) 対 応 C C	1 臨床心理学の基礎知識と理論を習得し、用語を正しく使えるようになる。 2 対人援助専門職として、心の問題と支援の方法について理解する。 3 国家試験を解く力を身につける。		

教科書	Crosslink Basic リハビリテーションテキスト 心理学・臨床心理学 (メジカルビュー社)
参考書・教材	授業でプリントを配布する。すべての配布資料を保管して、復習すること。
履修上の注意点	授業内容に関する質問や意見を随時歓迎します。学習内容についてグループワークで話しあい互いに理解を深めてください。授業と関係のない私語や内職を禁止します。

実施回	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション (臨床心理学とは何かを学び、その諸分野を俯瞰できる)	堀
2	こころの構造・防衛機制 I (防衛機制について例を挙げ説明できる)	堀
3	防衛機制 III・患者と治療者 (防衛機制の応用として転移・逆転移を説明できる)	堀
4	心理療法 I、集団・芸術療法 (集団療法の演習に協調的に参加・実践できる)	堀
5	心理療法 II、カウンセリング理論 (理論に基づくロールプレイを実践できる)	堀
6	心理療法 III、いろいろな心理療法 (各技法を分類し、特徴を説明できる)	堀
7	学習理論と行動療法 (理論と技法を関連づけ、大分類・小分類が正しくできる)	堀
8	心理検査 I、アセスメントの方法 (いろいろなアセスメント方法を分類できる)	堀
9	心理検査 II、人格検査 (質問紙を使って自分の性格を分析できる)	堀
10	心理検査 III、投影法 (投影法の諸技法について、特徴を挙げることができる)	堀
11	心理検査 IV、知能検査 (グループ演習に協調的に参加し、適切に実施できる)	堀
12	発達の障害、(発達障害・知的障害・認知障害について説明できる)	堀
13	精神の障害 (気分障害・パーソナリティ障害について分類できる)	堀
14	障害受容 (コーンのステージ理論、キューブラ＝ロスの死の受容を説明できる)	堀
15	補足とまとめ (学修内容を振り返り、重要項目について各自確認作業ができる)	堀

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 受験資格：総授業時間数の 2 / 3 以上の出席 評価要領：定期試験における科目評価 (実習・実技を含む) 及び平常評価を総合的に評価する。総合評価の要領は付紙のとおり。
	定期試験	80%	
	発言	10%	
	グループワークにおける積極性	10%	